

紅陵

2024



第24号

岐阜県立土岐紅陵高等学校

土岐紅陵高校の学び

校長 田中 誠二

本校に赴任して、はや一年が経とうとしています。これまで、普通科、理数科の高校での勤務経験しかなかったこともあり、総合学科の理解を深めることは、赴任して最初の課題でした。私にとって、この課題は新鮮でとても遣り甲斐のあるものでした。何故なら、そこに学びに係る魅力や可能性が詰め込まれていて、知るほどに土岐紅陵高校の可能性を強く確信したからです。良い機会なので、この一年間を振り返り、土岐紅陵高校の学びについてまとめてみようと思います。

商業高校や工業高校のような専門科高校の場合、同じ学科であれば学校によって教える内容にそれほど大きな差異はありません。それに対して、総合学科においては「学校の数だけ総合学科がある」といわれるほどに多様性が際立っています。実際に県内外の総合学科高校を見渡してみると千差万別なのです。なぜ、これほどに違うのでしょうか。

その理由の一つに、多様な学校設定科目の存在があります。学校設定科目は各学校が教育に特色をもたせる意図で設定する科目です。本校も「手話」「点字」「ハングル」「陶芸」「生活の書」「マンガ」「総合芸術」などの魅力的な学校設定科目を開いており、他に類をみない独自性を放っています。

次に系列とその横断性が挙げられます。学校によって設定する系列の数や種類は異なります。また、系列を横断する授業選択の幅も実に様々です。本校は学校設定科目も含め、比較的自由に授業を選択できる方ではないかと思います。

本校には「情報・ビジネス系列」「美術・工芸系列」「食と福祉系列」「進学系列（～R6 入学生）、総合型系列（R7 入学生～）」の4系列があり、2年次を選択して専門性を高めることができます。とは言え、専門科高校ほど専門教育に特化しているわけではありません。総合学科高校である本校は、「専門」ばかりでなく「総合」にも重きをおいているのです。「総合」というのは、異なる専門を重ね合わせたり、まったく別の視点を取り入れたりする学際的な学びのことです。本校では、系列を横断して授業を選択したり、ユニークな学校設定科目を自由に選択したりすることで学びの「総合」を図っています。2年次

で約1／3、3年次で約2／3の授業は、生徒が自らの志向やキャリア形成に基づいて自由に選択できるのです。ビジネスを専攻する生徒が、ハングルの授業を選択することもできます。この学びを契機に、将来商談で韓国を訪れたとしたら素晴らしいことだと思います。デザインを専攻する生徒が、点字の授業を選択することで、表現というものをより深く考えるようになるかもしれません。食を専攻する生徒が、陶芸の授業を選択することで、自ら焼いた器に創作した料理を盛りつけて料理を総合芸術へと高めるかもしれません。本校では授業を自由に選択するため、生徒の数だけカリキュラムがあります。一人一人のカリキュラムは、それぞれの生徒のアイデンティティを反映しているのです。それは、未来を開く鍵だとも言えるのです。

「総合」による学びの重ね合わせは、生徒個人にとどまりません。昨年12月26日に岐阜市のマサ21で「岐阜県達人カップ」という大会が開かれました。県内外の商業高校生が集い、仕入れから販売、決算までの販売スキルを競う大会です。本校も2年生のビジネス基礎選択者が参加し、健闘しました。会場で一際目を引いたのが本校の販売促進のポスターで、とても好評でした。この秀逸なポスターは、ビジネス基礎の生徒がクライアントになり、ビジュアルデザインⅠの生徒に制作を依頼したものです。そこには系列を超えた、「コンセプトを伝える」⇔「クライアントのニーズに応える」といった学びの相互作用があったのです。本校ならではの学びの成果です。

1月24日には、3年生の課題解決学習発表会を土岐市文化プラザで行いました。課題解決学習では、グループに異なる専門性をもった生徒が集まることで、探究の中にマーケティングの知識が活かされたり、発表のパワーポイントのシートにアートが感じられたりするなど、随所に「総合」の効果が表れていました。得意を出し合い分業や協業ができることは、生徒の皆さんの将来に資する大切な力です。

このように本校では、多くの学びが「総合」の文脈の中に位置づけられているのですが、教育は仕組みがあればできるものではありません。その意義を生徒、教員そして保護者が共有し、大切に育てることで、生きた学びに成りえるのだと思っています。実際、この1年で何度も、目を輝かせて授業に取り組む様子や自ら求めて学びを深める姿に出会いました。自分の好きを深め、広げる学びは、土岐紅陵高校の魅力になっています。

教 務 部

1 基本方針

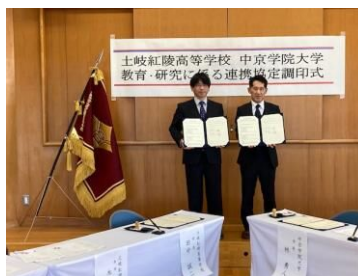
- (1) 校内各分掌・学年との連携を密にして、円滑で活気ある学校運営に努める。
- (2) 総合学科としての豊かな教育活動を展開する。

2 今年度の目標及び重点

- (1) 生徒それぞれの学習状況に応じた指導を実践することにより基礎学力の定着を図る。
- (2) 「学び方」や「学ぶ力」を身に付けさせるとともに「学ぶ楽しさ」を感じさせることができるように授業改善に取り組む。
- (3) 「協働的な学び」を充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- (4) ICTを活用した教育活動を実践する。
- (5) 地域課題を理解した上で、その解決方法を検討・提案できる能力の育成を図るための教育活動を推進する。
- (6) 働き方改革の工夫をする。
- (7) 観点別学習状況評価を正確に実施する。

3 今年度の活動

- (1) 生徒それぞれの学習状況に応じた指導を実践することにより基礎学力の定着を図る。
 - ① 多様な学習ニーズに対応するため、補充について内規を改正した。
 - ② 令和7年度入学生の教育課程を決定した。総合学科としての魅力があり、進路実現できる内容とした。
 - ★R1数Bの系列必須を外す
 - ・ 系列の壁を越えて、幅広い科目選択をさせるため（手話、国語表現は選択可能）
 - ・ 必須科目から外すが、四年制大学の経済学部・経営学部・商学部・理工系学部などに進学を考えている場合は受講させたい。
 - ★英検対策⇒2年次：B1 論理・表現Ⅰ
B2 エッセイ・ライティングⅠ
3年次：F2 論理・表現Ⅱ
 - ※R2ディベート・ディスカッションⅡ（新規）
※エッセイ・ライティングⅡをなくす
 - ★R1・2 総合実践、簿記②の帯変更
 - ・ パソコン教室を使用する科目があるためS1・2に総合実践を入れ替えることで時間割編成が容易である。ビジュアルデザイン②もパソコン教室を使用することができる可能性がある。
 - ★3年次：F2 陶芸基礎（学）から工芸Ⅰに変更。
 - ★中京学院大学と高大連携
教育プログラムの共同推進・地域貢献の推進・学生生徒、教員の相互交流を行っていく。



- ③ スタディサプリを活用して、授業の連絡やテスト範囲等の情報提供を行った。
- ④ じぶん開発講座「放課後学習室」を実施。



（スタサブで学習中）



- ⑤ じぶん開発講座「SST」を実施。



- ⑥ 外国人生徒適応支援員による放課後学習
 - ・ 英語検定対策の実施
実用英語検定準1級 2名合格



- ・ 全商簿記実務検定対策の実施
全商簿記実務検定3級 1名合格

- (2) 「学び方」や「学ぶ力」を身に付けさせるとともに「学ぶ楽しさ」を感じさせることができるように授業改善に取り組む。
 - ① 年中公開授業の実施。グループウェアの電子会議を活用して、教員の授業力向上に努めることができた。
 - ② 西陵中学校の授業を参観させていただき、授業改善の研修を行った。

③地域や外部と連携および横断的な授業実践
(1 年次)

言語文化	暑中見舞いを書き、出身中学校に送付
産業社会と人間	窯元巡り／仲間と街歩きをし、下石の製陶業の特徴を感じ取りながら地域産業について理解を深めた。

(2 年次)

ビジネス基礎	・達人カップ向けのPOP広告を共同制作 ・達人カップ商品仕入れのため地元企業と連携して仕入を行い、お店の取材や売価設定および税金計算についてのアドバイスを受ける。
ビジュアルデザイン①	・達人カップ向けのPOP広告を共同制作
総合的な探究の時間	窯元まつり「あそびのひろば」／地域の子どもたちに喜ばれる「あそびのひろば」の運営を探究した。
ハングルⅠ	韓国の高校生との交流事業

(3 年次)

栄養	株式会社トーノーデリカ様と商品開発
保育実践	西部こども園との交流
生活支援技術	認知症サポーター養成講座
点字	授業で製作した点訳絵本を岐阜盲学校へ寄贈
手話	ろう者の方との交流 地域のろう者の方を講師に招き、手話での交流を実施
ハングル基礎 ハングルⅡ	韓国の高校生との交流事業
産業社会と人間	・彩プロジェクト4月～7月計7回中京学院大学と連携。コミュニケーション能力が向上した。 ・窯元巡り／仲間と街歩きをし良さを味わいながら地元を支える人たちの想いを感じ取った。
総合的な探究の時間	「課題解決学習」／テーマについて外部連携し探究した。(1) 児童相談所と養護施設(2) トキハク憩いの場(土岐市役所・美濃陶磁歴史館)(3) 高校生が企画するコレクション展(現代陶芸美術館)(4) 韓国国際交流(ソウルコンベンション高校)

(3)「協働的な学び」を充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。

①1 年次生で演劇ワークショップを実施。

生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育むことができた。



②道徳教育講話の実施。

岐阜聾学校と連携し、豊かな心と望ましい道徳性の涵養を図ることができた。



③彩プロジェクトの実施。

中京学院大学と連携し、進路探究およびプレゼン能力の向上を図ることができた。



(4) I C Tを活用した教育活動を実践する。

①manaba・メタモジ・スタディサプリを活用した授業を実施することができた。

②大学進学希望者にスタディサプリの活用法の講座を行った。

③スタディサプリを活用して、教科担任から定期考査範囲を配信した。

学年	アクティブ率			視聴時間			確認テスト試行回数		
	本年平均	昨年平均	昨対比	本年合計	昨年合計	昨対比	本年合計	昨年合計	昨対比
高1	92%	77%	119%	50 時間 32 分	538 時間 00 分	9%	16,395	7,252	226%
高2	66%	36%	184%	260 時間 57 分	102 時間 18 分	255%	7,097	2,280	311%
高3	22%	17%	129%	116 時間 34 分	81 時間 48 分	142%	2,700	1,672	161%

学年	宿題提出率(自動 FU 配信除く)			進捗課題配信提出率(昨対比)			自動 FU 配信提出		
	本年平均	昨年平均	昨対比	本年平均	昨年平均	昨対比	本年配信 延べ人数	本年配信 提出延べ 人数	本年配信 平均提出 率
高1	85%	71%	120%	93%	67%	139%	1,019	693	147%
高2	59%	50%	117%	59%	39%	151%	518	261	198%
高3	56%	50%	113%	35%	4%	959%	201	145	139%

全体的に導入1 年目と比較して2 年目の本年度は生徒の活用率が上昇している。課題への取り組み率や視聴時間

の上昇がみられる。本年度における1年生視聴時間の低下については、確認テストに注力したことによる減少と考えられる。

(5) 地域課題を理解した上で、その解決方法を検討・提案できる能力の育成を図るための教育活動を推進する。

① 地元窯元による講演で地域の現状と課題を理解することができた。

② 窯元まつりへの参加。



(6) 働き方改革の工夫

① グループウェアの効果的な活用。

(回覧レポート・DM・スケジュール・電子会議室等)

② Web会議の継続。

③ 「すぐーる」を活用した出欠連絡を実施。

(生徒登録100%達成)

④ 「すぐーる」を活用した生徒や保護者等への情報発信や連絡。

⑤ 前期中間考査、後期中間考査4日目を生徒家庭学習日採点・成績処理日として実施。

(7) 観点別学習状況評価の正確な実施

① 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で観点別学習状況評価基準を作成し、評価基準に基づいて実施。

(8) その他

① 令和6年度版の科目選択チェックシートの作成と職員研修の実施。

② 令和7年度入学生用の科目チェックシートの作成。

③ 活性化推進部、部活動推進、管理職と連携して令和7年度入学生「総合型系列」の広報を実施。

④ 東鉄バスの本校乗り入れを4月から運行開始。ダイヤ改正の要望を提出し、10月7日ダイヤ改正。



⑤ 内規の見直し。

・ 気象情報の対応について改正

・ 管理関係について一部改正

⑥ エアコン設置の要望を事務長に提出

⑦ 総務部と連携し、美術実習室の整備を実施。また、男性職員更衣室、女性職員更衣室及び職員休養室の整備を実施。

⑧ 本館2・3階のクランク倉庫及び職員室小部屋のキャビネットの書類の整理を実施。

4 来年度に向けての改善方法案

(1) 学校要覧の県教育委員会への提出がPDFと10部だけになったため、令和7年度の部数を減らす。また、印刷を業者に委託せず、学校で作成できるか検討。

(2) 「すぐーる」の保護者登録100%を目指す。

(3) ユニバーサルデザインとラーニングピラミッドを意識した授業改善。

(4) 令和7年年間行事

・ 定期考査4日目を生徒家庭学習日、採点・成績処理日とする。

・ 修学旅行、窯元まつり、紅陵祭と教員への負担が大きいため、日程を調整する。

(5) 前期中間考査3年次のみ仮評定および仮観点別評価入力

進学調査書に反映する場合に観点別評価がないとエラーとなるため。

(6) 保管袋を以下のとおり改善

・ 返却できなかった答案のテスト名、クラス、返却日及び生徒名を記入した一覧表を貼り付け、記録を残す。

・ 複数の保管袋を準備し、教科ごと、クラスごとに分けて管理する。

・ 欠席者に後日返却する場合は、必ず返却の記録を残す。

(7) 令和8年度入学生の教育課程を検討し確定する。

(8) 中京学院大学と高大連携事業を実施する。

5 来年度の目標及重点

(1) 生徒それぞれの学習状況に応じた指導

「個別最適な学び」「基礎学力の定着」

(2) 「学ぶ楽しさ」を感じさせる授業改善

「学びの楽しさを感じさせ、生徒のモチベーション向上を図る」

(3) 「協働的な学び」を充実

(4) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善

(5) ICTを活用した教育活動を実践

(6) 地域課題の理解と解決能力の育成

(7) 働き方改革の工夫

① 教育課程・校務のリフォーム

② 地域・関係機関との連携

③ 教職員の意識改革

進学系列

1 系列目標

社会人として必要な「生きる力」を育成するための基礎学力を充実させるとともに、上級学校への進学に備えたより発展的な知識と前向きな学習態度を育成する。

2 系列必須科目の紹介

教科	科目	単位数	履修年次
数学	数学Ⅱ	4	2年次
英語	論理・表現Ⅰ	2	2年次
国語	論理国語	4	3年次
数学	数学B	2	3年次
英語	論理・表現Ⅱ	2	3年次

上記の科目は、進学系列において、必ず選択する科目となっている。その主な内容を紹介する。

○数学Ⅱ…数学Ⅰ（1年次）に続く内容として、複素数、図形と方程式、いろいろな関数、微分・積分などを学習する。

○論理・表現Ⅰ…文法を中心に英文を読む・聞く・書く・話すことを学習する。

○論理国語…評論文、論説文を読解する。

○数学B…数列、確率分布などを学習する。

○論理・表現Ⅱ…論理・表現Ⅰ（2年次）に続く発展的な内容として、多くの英文を読む・聞く・書く・話すことを学習する。

3 進学のために選択するとよい科目の紹介

教科	科目	単位数	履修年次
英語	ディベートディスカッションⅠ	2	2年次
英語	エッセイライティングⅠ	2	2年次
理科	化学基礎	2	2年次
地歴公民	倫理	2	2年次
地歴公民	政治・経済	2	2年次
国語	国語表現	2	3年次
数学	数学演習	2	3年次
英語	エッセイライティングⅡ	2	3年次
理科	化学	4	3年次
理科	生物	4	3年次
地歴公民	日本史探究	4	3年次
地歴公民	世界史探究	4	3年次
地歴公民	倫理	2	3年次
地歴公民	政治・経済	2	3年次

4 実践について

1) 新学習指導要領

新学習指導要領に移行して3年目となった。新学習指導要領の観点別評価は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの柱に基づき、どの教科においても円滑に運用することができている。

2) スタディ・サプリの活用

学習支援アプリ「スタディ・サプリア」を導入して2年目となった。この特徴として、学習理解を助ける講義動画と理解度を計る確認テストが挙げられる。年2回、国語・数学・英語の「到達度テスト」を実施しており、その結果に応じた「連動課題」も配信することができる。従って、各生徒は自分の理解度と学習ペースに応じた『基礎学力の定着』を図ることができ、苦手分野について、自分が納得することができるまで、徹底的に取り組むことができる。「個別最適」な学習を保証することが喫緊の課題であるが、そのニーズにも十分応えうる内容となった。

昨年度の実践を踏まえ、国語・数学・英語において、「スタディ・サプリア」をより効率的、効果的に運用することができた。

国語科…サプリア内の「世の中」科といわれる講義動画を活用し、自分たちの生き方や進路を考えるきっかけとした。

数学科…既習事項の理解を反復練習によって確認する手段として活用した。また、希望する生徒に対して、発展的な問題演習を提示した。

英語科…定期的に授業で宿題を提示し、その取り組み状況の細かな把握に努めた。

また、副次的効果として、生徒が進んで講座を調べ、積極的に活用する場面もあった。国語・数学・英語のみならず、漢検や英検などの検定対策、SPI、簿記などの学習に活用する生徒が出現してきたことは今年度の成果の一つであると言える。次年度以降、「スタディ・サプリア」のコンテンツをさらに活用していく必要があり、そのためには、まず教員側が今年度以上にコンテンツを深く理解し、適切なタイミングで提示するための下準備を怠らないようにすることが肝要である。

教科	科目	単位数	履修年次
数学	数学Ⅱ	4	2年次
英語	論理・表現Ⅰ	2	2年次
国語	論理国語	4	3年次
数学	数学B	2	3年次
英語	論理・表現Ⅱ	2	3年次

教科	科目	単位数	履修年次
英語	ディベートディスカッションⅠ	2	2年次
英語	エッセイライティングⅠ	2	2年次
理科	化学基礎	2	2年次
地歴公民	倫理	2	2年次
地歴公民	政治・経済	2	2年次
国語	国語表現	2	3年次
数学	数学演習	2	3年次
英語	エッセイライティングⅡ	2	3年次
理科	化学	4	3年次
理科	生物	4	3年次
地歴公民	日本史探究	4	3年次
地歴公民	世界史探究	4	3年次
地歴公民	倫理	2	3年次
地歴公民	政治・経済	2	3年次

科目名	単位数	履修年次		
数学Ⅰ	4	1年次		
数学A	3		2年次	
数学A（数学演習）	2			3年次
数学Ⅱ	4		2年次	
数学B	2			3年次
数学活用	2			3年次
化学基礎	2	1年次		
化学基礎	2		2年次	
生物基礎	2		2年次	
生物	4			3年次
地学基礎	2			3年次

科目名	単位数	履修年次		
現代の国語	2	1年次		
言語文化	2	1年次		
国語表現	3		2年次	
古典A	2			3年次
現代文A	2			3年次
現代文B	4			3年次
国語表現	2			3年次
公共	2	1年次		
歴史総合	2		2年次	
政治・経済	2		2年次	
政治・経済	2			3年次
倫理	2			3年次
日本史A	2			3年次
日本史B	4			3年次
世界史B	2			3年次
地理A	2			3年次
英語コミュニケーションⅠ	3	1年次		
英語コミュニケーションⅡ	2		2年次	
論理・表現Ⅰ	2・2	1年次	2年次	
コミュニケーション英語Ⅱ	2			3年次
ディベート・ディスカッションⅠ	2		2年次	
エッセイライティングⅠ	2		2年次	
英語表現Ⅱ	4			3年次
時事英語	2			3年次
英語会話	2			3年次
ハングルⅠ（学）	4		2年次	
ハングルⅡ（学）	2			3年次
ハングル基礎（学）	2			3年次

食と福祉系列

1 系列目標

生涯にわたる発達や生活の営みについて、食文化・福祉の視点を中心に、必要な知識と技術を習得し、男女が協力し、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的態度を育てる。

【食の分野】

2 令和6年度開講科目

2年次「食文化」「フードデザイン」

3年次「調理」「栄養」

3 令和6年度授業実践紹介

2年次科目「食文化」の時間では、『日本の食文化』の中で、行事食、郷土料理等について学習した。『世界の食文化』では、中国料理、西洋料理、韓国料理等について学習した。フードデザインでは、講義で食生活と健康、調理の基本等について学習した。また、日常食の実習をし、食物調理技術検定3級受験に取り組んだ。今年度は20名の生徒が合格した。

3年次科目「調理」では、『和・洋・中華』の調理を理論に基づいて実習をした。また、自分達で考えたオリジナルパンとデコレーションケーキの実習もした。「栄養」では、栄養素の機能と代謝、病態栄養等について実習を交えて学習した。



朴葉寿司、お吸い物
(食文化選択者)

りんごの皮むきテスト
(フードデザイン選択者)



オリジナルパン
(調理選択者)

デコレーションケーキ
(調理選択者)



【福祉の分野】

4 令和6年度開講科目

2年次「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」

「保育基礎」「生活と福祉」

3年次「保育実践」「点字」「手話」

「生活支援技術」

5 令和6年度授業実践紹介

〈認知症サポーター講習会〉

土岐市社会福祉協議会の方を講師に、2時間講義と演習を実施。



認知症を理解するとともに、現在、土岐市で運用されているスマホを使ったシステムについて知るきっかけとなった。

(生活支援技術)

〈聴覚障がい者との交流〉

瑞浪市在住の加藤静子様を講師にお迎えし、本校で2時間、とチャット通話を利用して2時間の交流を行った。

本校での交流では、生徒の手話による質問に答えていただくことと、加藤さんの生い立ちと今の生活について話を聞いた。

チャットでは、簡単な日常会話を手話でおこなった。

(手話)



〈点訳本の寄贈〉

「おさるのジョージ」シリーズの点訳を行い、岐阜盲学校へ寄贈。

(点字)



情報・ビジネス系列

1 系列目標

情報やビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員として望ましい心構えを身に付けるとともに、ICTの活用能力とビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育成する。

2 4年度開講科目

- 2年次「ビジネス基礎」、「簿記」
「情報処理」、「ビジネスワード」
- 3年次「ビジネスコミュニケーション」
「簿記」、「情報処理」
「ソフトウェア活用」「電卓実務」

3 成果

情報・ビジネス系列では、ICTを利用した授業を中心に授業展開している。microsoft社のoffice、Teams、formsやmanaba等を中心に利用している。また、挨拶の教育を重視し、挨拶、言葉遣い、身だしなみや整理整頓などのビジネスマナーの習得に力を入れている。

資格取得にも積極的に取り組んでおり、簿記、ビジネス計算、情報処理、ビジネス文書の4種目の検定に合格ができるようにサポートした。各検定とも昨年度以上の成果をあげることができた。

本年度は、昨年に引き続き、2年次のビジネス基礎の授業において、岐阜県商業教育研究会が主催する、岐阜市のマーサ21ショッピングセンターにて、「商業達人カップ」に出場した。本年度は、土岐市、多治見市の銘菓を知ってもらおうというコンセプトの中「虎溪渡辺製菓」様の窯出しどら焼き、とっくり最中、「たじみあられ」様のたじみあられごま風味、生姜風味、えび風味、ゆず七味風味を扱い、販売を行った。本年度は、SNSの動画作成、企画書の作成、商品の仕入れ、販売、値付け等の作業を全て生徒達自身で行い、POP広告の作成においては、美術工芸系列の生徒へアウトソーシングし、アウトソーシングのノウハウも学ぶことができた。さらに、系列間横断の学習にもつながった。「商業達人カップ」当日の成績は、11校参加中10位であったが、昨年達成できなかった商品の売上を達成することができ、生徒達全員が、達成感を感じた表情であった

ことが1番の収穫であった。

4 課題

①中京学院大学様と高大連携協定を結び、情報・ビジネスに関する科目において、サポートをしていただけるため、この機会を活用して有意義な教育を生徒達に提供していきたい。

②商業教育を通じて、『人間性』、『知識』、『技術』の3つを向上させ、世の中の役に立つ人づくりができるようにしていきたい。



美術・工芸系列

1 系列目標

美術・工芸の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 令和6年度開講科目

2年次 「美術Ⅱ」「素描①」「ビジュアルデザイン①」「マンガ基礎」「陶芸基礎」

3年次 「素描②」「彫刻」「絵画」「総合芸術」
「ビジュアルデザイン②」「工芸Ⅰ」「マンガ」「マンガ基礎」「陶芸基礎」「陶芸」

3 令和6年度の授業実践紹介

本校の学校設定科目である「陶芸基礎」「陶芸」の授業では、近隣に在住の陶芸作家である加藤保之先生の特別授業を仰ぐことが出来る。さらに今年度はもう一つの特別授業として、同じく近隣に在住の陶芸作家であるアサ佳先生の指導も受けることが出来ました。



系列展示（美術・工芸）

紅陵エキシビションではランチルームを会場にして日頃の制作の成果を発表する展示を行った。校内向けではあるが、「観客に向けていかに魅力的な展示をするか」を意識した搬入、展示作業も大変有意義な学びとなった。



今年度は「ビジュアルデザイン②」と「ビジネス基礎」がコラボし、達人カップで掲示するポスターやチラシを作成する科目横断的な授業を実施した。会場ではポスターについても高く評価をしていただき、日頃の学習の成果を出すことができた。



4 地域との連携等

地域の中学生を対象にした「夏休みマンガ講座」を開催した。本校の学校設定科目である「マンガ」の授業を体験したいと集まってくれた参加生徒は熱心に講座を受けていた。本校在学生との交流も盛り上がり、楽しいひと時となった。

生徒支援部

1 生徒支援の基本方針

学校教育目標の実現を目指し、生徒の可能性を最大限に引き出す生徒指導。

2 今年度の目標と活動の重点

- (1) 自己の在り方や生き方を主体的に考えることができる人間の育成

自己肯定感と自己有用感を育み、自らの価値と可能性に気づかせる。自分の幸せと、他者の幸せの共存を考えることができる心を育む。

- (2) 思いやりのある人間の育成

出会いと学びを通じて、人の気持ちを考え、発言・行動することができる力をつける。

- (3) 社会で求められる資質や品格を身に付けた人間の育成

基本的生活習慣を確立し、TPO をわきまえた立ち振る舞いができる力をつける。

- (4) 地域社会に貢献できる人間の育成

集団における自身の役割を理解し、他者と協働し責任をもって物事に取り組む力をつける。

3 今年度の主な活動

① 朝の挨拶活動・身だしなみ指導

登校時に、3 学年の主任・生徒指導主事が昇降口に立ち、挨拶活動と身だしなみ指導を実施。挨拶活動を通じて、生徒の日々の表情を観察し小さな変化を見逃さない努力。また、教員側から生徒に心を開いていることを示すために、進んで明るい挨拶をすることを心掛けた。それと同時に、身だしなみ指導をおこない、一日の始まりを落ち着いた姿と心でスタートできるよう声掛けを続けた。

② 未然防止の「攻めの生徒指導」を実践

年間を通じて、問題行動発生時に生徒と真正面から向き合うことを重要視した。また、ホームルームや学年集会、場合によっては全校集会などで、未然に問題を防ぐために、生徒の心を育てる指導を実践した。その結果、クラス、学年、学校全体としての成長をみることができた。その一方で、一部の生徒が変化しきれていない部分もあるため、引き続き粘り強く向き合っていきたいと考える。

③ チーム紅陵としての生徒指導

全職員で生徒指導方針を共有し、全職員体制での生徒指導・支援を実践した。落ち着いた状態を土台とし、生徒の更なる成長を追い求めた。その結果、昨年度以上に授業・学校行事・部活動等、前向きな挑戦をする生徒が増えた。

4 次年度への課題

今年度の生徒間トラブルを振り返ると、大きく二つの点が原因であると考えられる。まず一つはコミュニケーションの図り方について。二つ目はスマートフォンの使用方法である。この課題に対して、外部機関との連携も図りながら対応をした。そして、より良い方向にコミュニケーションを図る力、スマートフォンを活用する力を獲得させたい。

落ち着いた状態を確かなものとし、更なる活気溢れる学校に繋げていくために、日常の中から生徒の心を育む生徒指導を実践し続けたい。また、「思いやりの心」を育み、県下で最も温かみのある学校づくりを引き続き目指したい。



教育相談・人権教育

1 基本方針

教育相談

生徒一人一人の悩みや訴えを受け容れ、問題解決のための援助を行い、生徒個々の持つ可能性を最大限に実現させる。

人権教育

生命、人権、互いの個性を尊重し、民主的で偏見にとらわれない人間関係を醸成し、相手の立場を思いやり、進んで奉仕する心の育成を図る。

2 今年度の目標および重点

教育相談

「学校ぐるみの教育相談」体制を確立、推進する。方策として、学年会や職員会議などで、情報交換を密にすることにより、適宜援助の手を差し伸べられるようにする。

人権教育

総合学科の特長を生かし、偏見にとらわれず、他人と協調し、他を思いやる心の育成を図る。人権に関する講演を実施し、それについてHRで意見や感想を交換する。

3 今年度の活動

教育相談

(1) 心理検査

テストバッテリーM2・・・1年生
ハイパーQU・・・・・・2年生
教員研修の実施

(2) 自殺・不登校等未然防止事業

SOS 教育の出し方に関する教育

『ストレスを訴えるお作法はあるのか』

SC 大野佳枝先生による講演を実施

(3) 相談室の利用

スクールカウンセラーが定期的に来校し、悩みのある生徒のカウンセリングを実施。また、校内教育支援センター「ほっとプレイス」を活用し、教育相談係、スクール相談員が生徒の悩みや相談を聴き、解決にあたった。

特別支援教育

(1) 個別の教育支援計画の作成

支援を必要とする生徒・保護者との面談の実施。

学習面、生活面、対人面において、配慮や支援を計画し、評価して次へ繋げた。

(2) 巡回型通級の実施

発達障がいなどのある生徒の教育的ニーズに応じた支援を目的に実施。

自分開発講座（放課後セミナー）とし、専任教員土谷幸子先生（東濃フロンティア）が、希望生徒3名（2年生1名、3年生2名）を対象に開講。

9月より、月1～2回実施し、自己理解から始まりトリセツの作成を行った。専任教員との個別面談を繰り返すことで、生徒の意識を高めることができた。

人権教育

「ひびきあいの日」に人権講話を実施。

目的：身体障がいになられたご自身の体験から、「できること・できなこと」を整理し、人生を有意義に過ごすことを考える機会とする。

日時：令和6年11月14日(木)5・6限

場所：土岐紅陵高等学校 体育館

テーマ：「できないことの捉え方

～人生のヒント～」

講師：伊藤 英紀 氏



次年度への課題

- (1) 職員研修会の内容の検討。
- (2) 相談員・特別支援教育支援員の支援の在り方を検討。
- (3) 家庭との連携を図り、生徒・保護者・教師の情報を共有する。
- (4) 外部の専門機関などとの連携。
- (5) 幅広く人権について研修できるよう人権教育の実施内容を年度ごとに検討する。
- (6) 放課後セミナーの運営方法の検討。

特別活動部<2024>

1 基本方針

生徒の自主的・自立的活動を育成し、活気あふれる生徒会活動の推進を図る。

2 今年度の活動目標と具体的重点指導項目

<今年度の活動目標>

今年度は「戮力協心」というテーマで、土岐紅陵高校がより良い学校になっていくために、様々な活動を、1年間を通して継続的に実行していこうという目標を掲げた。

<具体的重点指導項目>

生徒会では次のような点を重点指導項目とし、取り組みを行った。

- (1) 文化祭の企画、運営
- (2) 特別支援学校との共同学習
- (3) 三年生を送る会の企画、運営

3 生徒会執行部

<令和6年度 前期生徒会執行部>

会長	3-3	緒方 愛莉
副会長	3-2	山口 紗和
総務長	3-3	増本 智大
財務長	3-2	梅村 美幸
生活長	2-2	伊藤 愛夢
行事長	2-3	田中 琉偉
議長	2-1	山田 羽菜
副議長	2-2	林 遼平

<令和6年度 後期生徒会執行部>

会長	2-2	林 遼平
副会長	2-3	田中 琉偉
総務長	2-1	山田 羽菜
財務長	2-2	鈴木 麗世
生活長	2-2	渡邊 ひなた
行事長	1-1	上川 蓬香
議長	1-2	曾村 琉斗
副議長	1-3	片山 琉功

4 活動実施内容

(1) 文化祭の企画、運営

文化祭の企画、運営では生徒会役員が主体的に動くことができた。昨年度に引き続いて教員対生徒会役員の動画撮影を行った。クラス活動と同時進行で大変だったが、自ら企画し必要なものの準備や先生方への依頼、撮影スケジュールなどを考えて、取り組むことができた。また、動画の編集についても生徒会役員のみで行うことができた。

文化祭の生徒会企画でオープニングを担当した。生徒会役員が司会、照明、動画再生など全員で協力しながらオープニングを進行できた。撮影編集した動画が、上映されるまでは楽しんでもらえるかとても心配そうだったが、実際に上映すると全校生徒が楽しんでもらえていることがわかった。一生懸命取り組んだからこそ、得るものが多い文化祭であった。

(2) 特別支援学校との交流

交流会を行うにあたって、東濃特別支援学校の生徒がどんなことができて、どんなことができないかを生徒会役員で案を出し合いながら企画を考えることができた。その結果、レクリエーションでは誰でも簡単にできるボール運びを行った。最初に何回か練習をしたことで、やり方を覚えてもらえ、盛り上がってゲームをすることができた。また、生徒会と吹奏楽部で交流会を行うことで、交流会全体がよい雰囲気でした。企画から運営まで行うことで相手のことを知り考え、企画する力がついた。来年度も生徒会、吹奏楽部と東濃特別支援学校の生徒でコラボして充実した交流会にしたい。

(3) 三年生を送る会の企画、運営

三年生を送る会で何をして三年生を送り出したいか生徒会役員で話し合った。昨年度は合唱を行ったが、その時の様子が良かったので、今年度もお世話になった先輩に歌を通して感謝を伝えたいという思いから合唱を行うことになった。曲は「旅立ちの日に」(川嶋あい)で、全校生徒で練習する機会を設けたいと考え、練習を行った。はじめは曲がわからない生徒が多かったが、曲がわかってくると一生懸命歌ってくれる生徒が多くよい練習となった。当日、音響のトラブルなどもあったが、三年生も真剣に聞いてくれる様子で思いが伝わっていると感じた。来年度も三年生に感謝をこめた企画ができるように送る会を実施したい。

進路支援部

1 令和6年度基本方針と指導目標

(1) 基本方針

生徒の生き方、在り方指導を中心として、生活や人生を考え、生徒が誇りある選択ができる能力や態度を育てる。

(2) 本年度の指導目標と重点

- 1 「産業社会と人間」「課題解決学習」「科目選択」など総合学科の特色を理解させつつ、3年間を見通した進路意識を早期から持たせ、進路ガイダンスの充実を図る。
- 2 学年・分掌と連携し、進路実現のために継続的な指導を充実させる。
- 3 生徒一人ひとりがその特性と適性を生涯にわたって生かせるように、より確実な職業選択能力をもてるようにする。
- 4 社会に通用する基本的な生活習慣や規範意識を育てる。5 S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を心がけ、生徒の生きる力に結びつけていく。
- 5 地域を愛し、地域に貢献できる態度を育てる。
- 6 地元自治体や地元経済界との連携を深め、キャリア教育を充実させる。

(3) 各学年の目標と指導の重点

【3年次生】＝ 進路決定と自己実現

進路目標を早期に決定させ、自己実現に最大限努めさせることで、自身の未来を自らの力で切り開く態度を育む。

(ア) 就職

就職希望者の就職内定率100%を目指す。

- ・徹底して個人と向き合い、本人の適性・適職を保護者とともに真剣に考える。
- ・企業訪問・企業開拓を積極的に行い、本校をアピールするとともに企業研究も行う。
- ・難関企業受験者の早期個別指導を実施する。
- ・受験対策として、3年生の先生方と連携して学力・面接・作文の指導に力を入れ、生徒の実力をつける。

(イ) 進学

進学希望者の志望校への100%合格を目指す。

- ・徹底して個人と向き合い、希望する学校へ進学できるように、指定校推薦のみならず公募制推薦や総合型選抜など、多様な入試方式での受験も視野に入れて考えさせる指導を行う。

- ・3年生ならびに各教科の先生方と連携した方法で進学補習を実施する。

- ・教科指導だけでなく、小論文・作文指導、面接マナー指導、生き方指導も徹底を図る。

【2年次生】＝ 進路目標の設定と具体化

- (ア) 自己理解を深めるとともに進路についての研究を進め、目標とする企業・上級学校を早期に設定させる。
- (イ) 得意科目の伸長を目指し、不得意科目においてはその克服に努力させ、逞しく気力に溢れた人材を育成する。

【1年次生】＝ 自己理解と職業理解

- (ア) 基礎基本に重点を置いた好ましい学習習慣の確立と、基礎学力の充実を図る。
- (イ) 自己理解や職業理解を深め、自身の進路についてじっくり考えさせる。

2 令和6年度の進路行事

【1年次生】

- ・5月 クレペリン検査
- ・5月 職業レディネステスト
- ・12月 進路ガイダンス
- ・1月 就職ガイダンス (厚生労働省)
- ・2月 希望別進路ガイダンス

【2年次生】

- ・5月 クレペリン検査
- ・6月 進路別パネルディスカッション
- ・11月 企業見学バスツアー
- ・12月 学校見学バスツアー
- ・1月 進路ガイダンス
- ・2月 就職ガイダンス (ハローワーク)

【3年次生】

- ・5月 合同企業説明会・進路別ガイダンス
- ・6月 卒業生と語る会
- ・8月 就職ガイダンス (ハローワーク)
- ・8月 多治見法人会面接指導

【じぶん開発講座】

- ・6月 国公立大学説明会
- ・7月 スタサブ活用講座
- ・11月 教職説明会
- ・12月 静岡文化芸術大学説明会
- ・12月 岐阜県立看護大学説明会



3年次生合同企業説明会（5月）



3年次生多治見法人会面接指導（8月）



2年次生学校見学バスツアー（12月）



3年次生テーブルマナー講習会（12月）

3 令和6年度3年次生の進路状況

進学者は合計43名であった。うち、四年制大学への進学者は14名となり、ここ6年間で最多となった。短期大学への進学者は1名、専門学校への進学者は28名であった。

就職者は合計38名であった。様々な業種・職種へ就職し、総合学科の特色が活かされていると考えられる。

進学・就職ともしない3年次生は3名であった。アルバイトで修学資金を貯めてから進学する予定の生徒。進学を希望していたが、学びたい内容かどうかで迷いをもったことでアルバイトをしながら1年間考えて決める生徒。卒業後に海外に行ってワーキングホリデーをする生徒である。

◆進学状況

<四年制大学・短期大学>

進学先の学部・学科・専攻は様々である。14名の合格者のうち、指定校推薦入試の合格者は6名であった。総合型選抜での合格者は8名となり、急増した。学校推薦型選抜出願の校内の要件を満たさなかったことによる総合型選抜での受験という生徒もいたが、多くの生徒は指定校推薦での合格を前提とした進路選択ではなく、卒業後に学びたいことや将来の職業選択等を考え、主体的に進学先を決定した様子が見られた。また、美術・工芸系列を選択した生徒が2年連続で名古屋造形大学の総合型選抜を受験・合格していることから、系列選択が進路先の決定に影響する状況が近年見られるようになってきた。

短期大学は昨年度と同様、1名であった。短期大学を志望する生徒は年々減少している。本校の近隣には短期大学が決して少なくないが、専門学校や四年制大学で同じことを学べる学科・専攻であれば、そちらを選択するケースが多い。

<専門学校・その他>

専門学校への進学は、今年度も医療、福祉、商業実務、文化教養、デザイン、美容、情報、自動車整備など多種多様な分野に進学している。

指定校推薦での合格者は10名、総合型選抜(AO入試)での合格者は18名であった。

分野別では、美容系に進学した生徒が6名と目立って多かった。美容師を目指す生徒だけでなく、

ネイリストやエステティシャンなどを将来の職業としたい生徒も増えつつある。

◆就職状況

慢性的な人手不足が各業種で見られるなか、求人数が増加した（令和6年12月末時点で1573件）。県内だけでなく、愛知県の企業からの求人も増加した。職種別に見ると、生産職の割合が変わらず高い。また、事務職、販売職についても求人数が増加した。さらに、最近求人をいただけていない企業から求人を久しぶりにいただくことができたケースもあった。

自宅から通勤できる範囲の企業に就職するケースが今年度も目立ち、地元貢献しようという意識が強いように感じた。

一度目の採用試験で不採用となった生徒が5名いた。昨年度（2名）から増加した。これまで本校の生徒が受験したことがない企業へのチャレンジによる不採用のケースが複数あった。その5名の生徒はいずれも二度目の採用試験で採用内定をいただき、順調に進路決定ができた。

4 次年度への課題

総合型選抜による四年制大学への進学者が増加している。これは四年制大学側が総合型選抜による入試を重視しつつある環境にも影響されている。入試直前に準備しても対応しきれない選抜方法であることから、生徒の決断をより早期に促すことや合格に向けて計画を立てて地道に取り組ませるよう指導していくよう努める必要がある。

就職においては、求人票の閲覧システムを変更する予定があり、それが実現することで、デジタル機器を活用した早めの就職希望先の決定につながると考えられる。そのことを踏まえて生徒により積極的に活用するようアプローチし、相談体制を構築することが課題の1つになる。また、警察官志望の生徒が合格できなかった理由の1つが計画性に欠けていたことにある。したがって、公務員を目指す生徒の学習計画を立てさせることも必要になる。

5 令和6年度進路実績
進学先一覧

<四年制大学合格状況>

学校名	学部・学科	男	女	計
大手前大学	現代社会学部	1		1
岐阜医療科学大学	看護学部		2	2
中京学院大学	経営学部	1		1
中部大学	応用生物学部管理栄養科学専攻	1		1
中部学院大学	人間福祉学部	1		1
名古屋外国語大学	外国語学部英米語専攻		1	1
名古屋経済大学	法学部ビジネス法学科	1		1
名古屋芸術大学	美術領域	1		1
名古屋造形大学	美術表現領域	1	1	2
名古屋文理大学	健康生活学部健康生活学科	1		1
名古屋文理大学	健康生活学部フードビジネス学科	1		1
名城大学	経済学部産業社会学科		1	1
		7	7	14

<短期大学合格状況>

学校名	学部・学科	男	女	計
愛知みずほ短期大学	生活学科生活文化専攻オフィス総合コース		1	1
		0	1	1

<専門学校合格状況>

学校名	学科	男	女	計
愛知調理専門学校	調理専攻科	1		1
愛知美容専門学校	美容科		2	2
あいち福祉医療専門学校	介護福祉学科	1	1	2
あいち福祉医療専門学校	作業療法学科	1		1
ELJCビジネス&公務員専門学校	公務員科	1		1
沖縄ビューティ&ブライダル専門学校	ブライダルプロデュース科		1	1
中日美容専門学校	美容科		1	1
中日美容専門学校	美容科 ヘアメイクアップアーティストコース		1	1
中部国際自動車大学校	1級整備士コース	1		1
中部国際自動車大学校	2級自動車整備士コース（2年）	1		1
東京ITプログラミング&会計専門学校 名古屋校	情報システムコース		1	1
東京法律公務員専門学校	警察・消防官・自衛官コース		1	1
トヨタ名古屋自動車大学校	高度自動車工学科	1		1
ナゴノ福祉歯科医療専門学校	歯科衛生士科		1	1
名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校	英語学科留学コース	1		1
名古屋工学院専門学校	ゲームCG分野ゲーム総合学科	1		1
名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校	スーパードンターテインメントVtuberエンターテインメント本科	1		1
名古屋製菓専門学校	洋菓子技術マスター科		1	1
名古屋総合美容専門学校	昼間専門課程（専門課程美容科）	2		2
専門学校名古屋デザイナー・アカデミー	マンガ学科コミックイラスト専攻	2		2
名古屋文化学園保育専門学校	保育学部午前コース	2		2
名古屋ユマニテク調理製菓専門学校	製菓製パン本科	1		1
専門学校日本デザイナー芸術学院	ビジュアルデザイン学科グラフィックデザインコース	1		1
		10	18	28

<看護系専門学校合格状況>

進学者がいなかった。

就職内定先一覧

企業名	職 種	男	女	計
(株)アイシン瑞浪	生産技能職	1	1	2
ALSOK愛知(株)	ALSOK警備職（施設常駐警備）		1	1
(株)イトウ産業	上下水道・土木工事等の公共工事の設備管理者	1		1
(株)恵那川上屋	総合職（販売・製造・営業等）		1	1
エヌジー・ライフ(株)多治見カントリークラブ	キャディー		1	1
光洋陶器(株)	製造		1	1
三光化成(株)多治見工場	製品検査・組立職		1	1
(株)全日警中部空港支社	中部国際空港セキュリティスタッフ	1		1
(株)多々楽達屋	ドライフルーツ・ナッツ製造職		1	1
(株)デンソー	生産関係職		1	1
(株)東海メディカルプロダクツ	製造職		1	1
東京窯業(株)多治見工場（(株)TYK）	技能職	1		1
陶都信用農業協同組合	事務・営業		1	1
東邦薬品(株)	医薬品の営業	1		1
トータルシステム(株)	設備工事スタッフ	1		1
TOTOウォシュレットテクノ(株)	総合職（土岐）		1	1
TOTOマテリア(株)	製造技術職	1		1
土岐ダイナパック(株)	一般事務		1	1
土岐ダイナパック(株)	アソート作業員		1	1
(株)トキワ	化粧品製造		2	2
トヨタ自動車(株)	生産関係職		1	1
日本郵便(株)東海支社	一般職（窓口コース）		2	2
日本郵便(株)東海支社	一般職（郵便コース）	1		1
日本ボデーパーツ工業(株)中部支店	商品管理（倉庫内作業）	1		1
(株)パロマ 恵那工場	技能職		1	1
医療法人ブレイン	医療事務		1	1
瑞浪精機(株)	事務及び加工・組立		1	1
(株)三井ハイテック	技能職	3		3
名鉄自動車整備(株)	自動車整備士	1		1
明和工業(株)	自動車部品の製造		1	1
(株)ヤマエル	内装施工作業者	2		2
自衛隊	自衛官候補生	1		1
	合計	16	22	38

6 進路決定体験記

（岐阜医療科学大学看護学部進学予定者）

私は看護師になるために岐阜医療科学大学に進学します。この大学に決めた理由は、人間性やコミュニケーション能力を高めることができると思ったからです。また、助産学専攻科があるからです。

進路をはっきり決めたのは高校2年生の夏頃でした。それまでは、看護学部に進学したいとは考えていたけれど、どの大学や専門学校にするのか迷っていました。また、助産師も気になっていました。さまざまな学校を調べるなかで、この大学に進学したいという気持ちが大きくなりました。

次に、担任の先生や進路担当の先生などに相談していくと、指定校推薦がないということがわかりました。絶対にこの大学に行きたいという気持ちが強かった私は、総合型選抜での受験をチャレンジする決意を固めました。

そこから、受験に向けて懸命に頑張りました。評定平均を上げるよう普段の授業や定期考査に向けて学習したり、多くの先生方に面接練習を自ら依頼したりするなど、たくさん努力をしました。その結果、なんとか合格することができました。合格後も大学で必要な学力をつけるため、大学から出された課題を解き、分からない問題は先生に質問して、理解できるようになるまで何度も解きました。

私の学力ではだめだと最初からあきらめるのではなく、努力すれば合格できると知って自信をつけることもできました。大学に入学してからも、努力を積み重ねることの大切さを忘れず、看護師になる未来を見失わずに歩み続けたいと思います。

総務部

(保健厚生)

1 基本方針

- (1)自らの健康と安全を守る力を育成
- (2)安全・安心な教育環境づくり
- (3)校内美化の推進

2 目標と重点

- (1)自らの健康と安全を守る力を育成する。
 - ① 定期健診の実施と事後指導の徹底を図る。
 - ② 保健指導（歯科指導）の徹底
- (2)日常生活の安全管理と非常時変災時の対策
 - ① 定期的な安全点検を実施
 - ② 防災教育の充実（訓練の実施、自助・共助・公助を身に付けさせる指導）
 - ③ 危機管理マニュアルの作成と職員研修の充実
- (3)校内美化・環境整備・ゴミ削減・消毒の徹底
 - ① 10分間の清掃活動の充実
 - ② 教室内の整理整頓
 - ③ 消費エネルギーの節約呼びかけの実施
 - ④ 手洗い、校内の消毒、換気の実施

3 定期健康診断結果

(1) 体位

	男子		女子	
項目	身長 (cm)	体重 (kg)	身長 (cm)	体重 (kg)
1 年	166.9	60.1	154.6	49.2
2 年	168.9	59.6	157.0	51.1
3 年	168.7	60.9	156.9	53.1

(2) 視力測定 (%)

裸眼視力	1.0 以上	0.9～0.7	0.6～0.3	0.2 以下
1 年生	58.6	10.3	13.8	17.2
2 年生	41.4	10.3	31.0	17.2
3 年生	53.6	14.3	28.6	3.6
全 校	51.2	11.6	24.4	12.8

矯正視力	1.0 以上	0.9～0.7	0.6～0.3	0.2 以下
1 年生	11.1	22.2	45.0	2.5
2 年生	7.1	57.1	35.7	0.0
3 年生	16.7	33.3	33.3	16.7
全 校	103	41.4	37.9	10.3

(3) 歯科検診 (%)

	1 年	2 年	3 年	全校
う歯なし	68.7	56.0	53.8	59.6
処置完了	10.8	21.4	20.5	17.6
未処置歯有	20.5	22.6	25.6	22.9
歯列要受診	59.0	45.2	52.6	52.2
顎関節要受診	0	0	0	0
歯垢要受診	0	0	1.3	9.8
歯肉要受診	41.0	26.2	32.1	33.1

(4) 結核検診 (1 年生) 人

	1 年生	精密検査対象者
検査人数	86	0

(5) 内科検診
全員の生徒が総合判定と指導を受けることができた。

(6) 諸検査結果

① 尿検査結果

	1 次検査			
	実施数	蛋白	潜血	糖
1 年生	90	4	0	2
2 年生	90	2	3	1
3 年生	85	1	0	0

② 心電図検査 (1 年生)

1 次検査		要医師総合診断		
実施数	有所見	管理不要	要観察	要管理
90	0	0	0	0

4 本年度の取り組みと今後の課題

今年度は大規模な感染症の流行はなかった。しかし、感染防止対策は引き続き重要な課題となった。また、校内環境整備の日を設け、校内清掃を実施した。今後も、継続して校内美化に努めたい。

(1) 防災に関する取組

①定期点検

本年は2回の総合点検を実施した。安全面では緊急に対応すべき事案は無かったが、校舎の経年劣化に伴う軽微な異常は確認されている。

②危機管理マニュアル

以前に防災専門家による指摘、助言の支援を受け、大きく追補した。その内容を再度確認し、改善を図った。

③備蓄品の充実

入学時に購入し、卒業時に生徒に返却している。昨

年度までの反省を踏まえ、今年度より備蓄品は、生徒1人につき1セットのものを購入することにした。これによりコンパクトなものとなり、非常変災時には生徒に配布しやすくなった。

④命を守る訓練の実施

第1回 5月23日（木）

突発的な地震発生に備えた避難訓練を行った。シェイクアウトから体育館への避難と点呼までスムーズに行うことができた。

第2回 9月6日（金）

突発的な地震発生に備えたシェイクアウト訓練を行った。熱中症予防のため避難の訓練は行わず、教室内のシェイクアウトのみに留めた。

第3回 11月22日（金）

火災発生を想定した避難行動を行った。事前の予告は行わず、6限目終了前に実施した。今年度は消防署の参加はなかったが、来年度からは消防署の指導助言をいただけるように検討したい。

⑤帰宅確認訓練 4月19日（金）

「すぐーる」を用いた「非常変災時における帰宅確認」の訓練を行った。ほとんどの生徒がスマートフォンを所有しており、年度初めから「すぐーる」を利用して連絡をすることが多く、生徒と家庭においては受信する環境が整っている。

登校確認の時間を利用して行ったが、多くの生徒が「すぐーる」を正しく利用することができた。

（2） 学校保健に関する取組

①新型コロナウイルス対策はなくなった。しかし、感染症は無くなったわけではないので、手洗い、換気などの対策は継続して実施した。

②健康診断は先生方の協力のもと無事に計画通り実施できた。その後の検診後の個別保健指導を丁寧に行った。

③文化祭で保健委員会としてインスタントラーメンの塩分調査と発表をした。保健委員は積極的に参加ができ、食生活について考える機会となった。

④職員救命講習会

実施日 9月27日（火）

緊急時に備え、全職員が救急救命に対応できるよう実施した。当日は、心肺蘇生法（胸骨圧迫）及び、AEDの基礎知識と実習を行った。

（3） 校内環境に対する取組

①教室の空気環境

換気の啓発と巡回による窓の開放、空気清浄機の使用、二酸化炭素濃度測定器による、CO₂濃度測定を実施した。

②空調設備（エアコン）

各HRで「使用規定」を守った運転を実施することができた。

③自動販売機

容器の分別処理について担当職員の努力により、ある程度の定着は見られた。

④校内環境整備

実施日 11月10日（金）

昨年度は本校職員に加え、PTA 役員の方々にご協力いただいた校内環境整備活動をしましたが、今年度は午後の時間を使い職員と全校生徒とで通常の掃除区域でない場所の清掃活動を実施した。グラウンドなどの草刈りやごみ拾いなど、長年にわたって手をつけることができていなかった部分についても、綺麗にすることができた。

今後の課題

生徒の健康観察を職員全体で行うこと。また、校内環境美化をより徹底して行い、より良い教育環境の整備を引き続き目指していきたい。

総務部〔渉外〕

1 基本方針

(1) 学校・家庭・地域社会との連携の緊密化・効率化

① 広報活動の充実（デジタル学校誌「紅陵」 ホームページPTA会報「紅陵」）

② PTA活動のより効率的・効果的なあり方についての検討

(2) 会員の教養向上と教育的理解を深めるための研修

① 地区高校PTA指導者研修会への参加

② 県高校PTA連合会事業への参加

(3) 会員の学校行事やPTA事業への積極的な参加と協力

① PTA総会・学年懇談会への積極的な参加と協力

② 本部役員・常任委員会を中心とした学校祭バザー・ハローモーニング・就職者面接指導等の参加

③ 会員の学校行事への積極的な参加と支援

(4) 広報活動による学校PRの充実

① デジタル学校誌「紅陵」の作成にあたり、他の分掌・学年・教科等に協力を得ながら企画を図る。

② PTA会報「紅陵」をホームページに掲載して、記録し、保存する。

③ PTA会報「紅陵」作成に役員の方にも協力を求めて、お互いの連携のもとで魅力ある会報を目指す。

2 今年度の目標及び重点

学校、家庭、地域社会と連携の緊密化をさらに図り、教育的理解を深めるための研修や行事を推進する。また行事の見直しを計り、PTA役員の負担を軽減するとともに、会員の参加率を向上するような手立てを考える。更に広報活動を積極的に行い、保護者の方々の理解を深める。

3 PTA活動の報告

(1) 第1回常任委員会(4/11)

第1回のPTA本役員会、常任委員会を実施した。内容は新役員紹介、決算・予算についてとPTA年間行事予定などの確認をした。

(2) PTA総会(5/2)

新型コロナウイルス感染症パンデミック以来、久しぶりの対面での開催となった。授業参観、総会、学年懇談会、そして今年度より部活動懇談会も行われた。

総会には53名の出席があり、新役員へ引き継がれた。

今年度PTA本部役員

会 長 小栗 辰彦

副 会 長 池田 賢市 深尾 理恵

成瀬 美智子 加藤 美由紀

鈴木 直美 梶田 真衣

書 記 芦塚 聖世

会 計 加藤 美由樹

会 計 監 査 鈴木 美香 林 絵美

(3) 前期ハローモーニング(5/8・9)

朝の8時10分より8時30分まで、前期ハローモーニングを実施した。PTA役員（のべ24名）と生徒のMSリーダーズが校門前と今年度から乗り入れられた東鉄バスの停留所前で、本校独自のウィンドブレーカーを着用し、気持ちの良いあいさつを交わした。



(4) 役員会(9/6)

紅陵祭の取り組みについて話し合いをした。話し合いの結果、生徒が楽しんで紅陵祭に参加できるようにということで、昨年に続き「ビンゴ大会」と、今年度新たに「バザー」を開催することになった。「バザー」はPTA役員と教職員が協力し、生徒が喜ぶ顔を創造しながら準備を進めた。

(5) 後期ハローモーニング(10/3・4)

PTA役員（のべ21名）、生徒会役員、学校職員が参加し、活動を行った。本校独自のビブスを着用して頂き、交通安全指導の意味も兼ねて、PRすることができた。

(6) 紅陵祭(10/31)

一日目は「バザー」を行った。メニューは焼きそばと揚げパンを用意し、生徒全員に配布した。朝早くから役員の皆さんが調理室に集まり、下準備をし、学科棟理科棟の間にテントを張り、PTA 会長・副会長、校長・教頭が見事なヘラさばきで焼きそばを振る舞った。

二日目はハズレなしの「ビンゴ大会」を開催。ビンゴした生徒には素敵な景品がもらえ、大変盛り上がった。



(7) 第2回常任委員会(1/17)

今年度の事業報告を行い、来年度事業計画案・予算案を提案した。また来年度役員についても検討を始めた。

(8) 本部役員選考会(3/14)

本部役員、常任委員が中心となり来年度のPTA役員の選考を行った。

(9) 紅陵 136 号 (5/2) ・ 137 号 (12/15) をホームページに掲載

(10) デジタル校誌「紅陵」発行

〔図書〕

基本方針

良質な図書館運営を目指して

- ① ・利用しやすい図書館運営を目指し、読書や学習、課題研究活動のための環境を整える。
 - ・公共の場での利用マナー指導に努める。
- ② ・良質な文化に触れる機会を提供し、生徒の自主的、自発的な学習活動の支援ができる情報センターを目指す。
 - ・「課題解決学習」については、図書・資料の充実に努め活用能力を高めさせる。
 - ・校内読書感想文コンクールを実施する。
- ③ 生徒による自主的な委員会活動の充実に図る。
 - ・本を紹介するためのPOP製作
 - ・図書館だより「りいぶら」の発行等

1 選書方針

- (1) 生徒の読書意欲を喚起できる本。
- (2) 生徒の幅広い知識、教養を育てる本。
- (3) 教科、課題解決学習、学校行事、進路などで活用できる本。

生徒にとって読みやすく、手に取りやすい選書に努める。日常的な選書は上記の選書方針に従い、主として図書部で行う。(教科、課題解決学習担当、生徒からのリクエストに応える)

2 主な活動

- 4月・1年次生図書館利用ガイダンス
- 5月・第1回図書運営委員会
- 6月・課題図書コーナーを設置
 - ・「先生方のおすすめの一冊」作成・配布
- 7月・七夕フェア
- 9月・読書感想文コンクール
- 12月・クリスマスフェア
- 2月・次年度購入雑誌の検討
- 3月・蔵書点検
- 随時・図書館だより「りいぶら」毎月発行
 - ・新刊案内は隔月発行

3 図書館の概要

- ・開館時間 8:30～16:00
(生徒利用は昼休み時間、放課後)
- ・貸出期間 2週間 10冊まで

蔵書構成

分 類	現有冊数
0. 総 記	535
1. 哲 学	612
2. 歴 史	2,092
3. 社会科学	2,078
4. 自然科学	1,830
5. 技 術	1,351
6. 産 業	528
7. 芸 術	3,296
8. 言 語	511
9. 文 学	6,141
合 計	18,974

4 図書館利用の状況

月別学年別貸出冊数
(令和6年4月～
令和7年3月)

	1年	2年	3年
4月	71	1	27
5月	24	4	24
6月	11	0	6
7月	14	0	12
8月	3	0	4
9月	2	0	16
10月	7	1	16
11月	5	1	8
12月	15	0	14
1月	5	0	1
2月	1	20	0
3月	0	0	0
合 計	158	27	128

生徒一人当たり貸出冊数は 約 1.2冊である。

5 図書委員会活動

図書委員は各クラスから選出された9名の生徒で構成した。コロナウィルス感染予防により、活動に制約がある状態は続いていたが、図書当番・環境整備・図書委員会だより「いぶら」の発行・POP作成などの他、3年ぶりに実施された紅陵祭に展示参加をした。

6 読書感想文コンクール

国語科3年次の夏休み課題として取り組んだ。



7 読書感想画コンクール

今年度は応募がなかった。

8 「図書館だより」コンクール



今年度も「第56回図書館だよりコンクール」に応募した。手書きにこだわり、イラストを配し、バランスのよい仕上がり に気を配って作り上げている。入賞には及ばなかったが、審査 講評において高評価だったとの言葉をいただいた。

9 校内図書館主催「おすすめの1冊コンクール」



図書委員会活動として、収蔵図書のイラストPOPの作成をし、応募した。

その結果、1年森下寧々さんが見事奨励賞を受賞した。

活性化推進部

1 基本方針

1. キャリア意識の向上と自己肯定感の醸成を目指す授業づくり・実施に努める。
2. 家庭や地域との連携を生かした教育活動を画策する。
3. 広報活動の充実を通して「開かれた学校づくり」に努める。

2 活動の重点

1. 総合学科としての特色を活かした教育計画
 - (1)「産業社会と人間」において、地域や外講師と連携しキャリア学習を推進する。科目選択指導を充実させる。
 - (2)「総合的な探究の時間」において2年次生の活動では、協働的・対話的な探究活動を取り入れる。3年次生の活動では『課題解決学習』と位置づけ、テーマ別の探究学習を実施する。
2. 地域連携を活かした教育活動
学校行事として窯元まつりへの参加など
3. 「開かれた学校」づくりの推進
 - (1) 広報活動の充実
 - (2) 課題解決学習発表会・紅陵エキシビションの計画・実施

3 今年度の活動

1. (1)「産業社会と人間」

今年度からの新規事業として3年次生進学コースの生徒を対象に中京学院大学と連携し「彩プロジェクト」（進路探究およびプレゼン能力の向上）を実施した。将来どのようにして自分らしく社会と関わっていくかについて考えるとともに、その内容を表現したりコミュニケーションしたりする技術を身に付けることができた。今年度2年目となる窯元まつりへの全校参加は、1年次生は「地場産業を知る」という目標で、3年次生は「地元の文化観光の担い手について知る」という目標で産社の授業の一環として実施した。
- (2)「総合的な探究の時間」

2年次生の活動では、10月の窯元まつり

において『あそびのひろば』を運営した。今年度は」という目標で総合的な探究の時間の授業と接続し、9つの出し物を企画し、運営、広報活動を含めて実施した。3年次生の『課題解決学習』は、各グループフィールドワークを取り入れながら探究学習を進めることができた。

2. 1 - (1)(2)において下石町工業協同組合や土岐市教育委員会、岐阜県現代陶芸美術館と連携し、それぞれ地域の期待に応えることができた。
3. 6月 スクールガイドの発行・紅陵PR週間
7月 夏の体験入学・全国総文韓国国際交流事業
10月 秋の高校見学会
11月 東濃地区高校フェア
1月 探究学習の成果発表会（課題解決学習発表会）・紅陵エキシビション

○窯元まつりについての地域の方の感想：窯元まつりへの参加の様子で、地元の方々や訪問者からも高い評価を得ている。また、まつりで学んだことをまとめ、発表に繋がられていることが素晴らしい。これらをさらに来年の成果に結びつけるために模索したい。生徒とともに地域活性化のために協力体制を作りたい。

○課題解決学習発表会について学校運営協議会委員の感想：昨年の発表も見たが、1年間で大きな変容を見せた生徒がいて感動した。また、中学時代を知る生徒の大きな変容を目の当たりにし、自分の人生を切り開いている生徒が存在していることに教育的な意味があり、高校で育てていることを実感できて感動した。

次年度に向けて：土岐紅陵高校が今後も地域にとってなくてはならない学校になるために、地域創生の核となるべく、今後も地域コミュニティや近隣の小中学校や大学との連携が不可欠である。地域資源に恵まれた環境を生かして本校の教育活動に活かしたい。



11月 窯元まつり あそびのひろば運営の様子

ICT 推進部

1 基本方針

- (1) 校内各分掌・学年との連携を密にして、円滑な運営に努める。
- (2) 総合学科としての豊かな教育活動を展開する。

2 今年度の目標及び重点

- (1) 職員の情報活用能力の向上を図る。
- (2) 在校生やその保護者はもちろんのこと、入学希望者やその保護者に対してホームページ、Instagramを通して学校の雰囲気やカリキュラムを把握できるようにする。
- (3) 校務の情報化をはかり、校務の透明性や迅速性を向上させ、職員の負担やストレスが軽減する。
- (4) ICTを活用した教育活動および遠隔授業について、実践を通じて研究を進める。

3 今年度の活動

- (1) 公式Instagramを開設し、学校情報の公開に努めた
 - ① 日常生活や各行事など学校の雰囲気が伝わるように、日々の更新に努めた。Instagramのフォロワー355人（R7.01.11現在）、ホームページの閲覧者数は昨年度比147%を達成した。学校の情報を在校生、保護者だけではなくより多くの地域の人に伝えることができた。

- (2) 校務の円滑化のため、設備を充実させた。

- (4) ICT活用推進について

① Teams の活用推進

授業ごとに team を作成して共同作業をすることはなかったが、今年度は生徒教員間でチームを作り共同作業を行い、写真の共有や資料の共有を行った。

② 進路支援部との連携

本年度は進路支援部との連携のもと、生徒の求人検索を効率化するためのファイルを作成した。このファイルは、企業の特徴や条件を一覧で確認できるようになっており、生徒が自分に合った企業を探しやすくなった。また、このファイルの導入により、求人票のコピー作業や紙の消費量を大幅に減らすことができた。

③ 活性化推進部との連携

中学生一日体験入学や秋のオープンキャンパスでは、活性化推進部と連携して、参加者の集約や希望講座の選定を行った。この作業をICT推進部が担当することで、活性化推進部は煩雑な作業を減らすことができ、講座内容などに集中し、より良いものを提供することができた。

研 修 部

1 基本方針

- (1) 時代の変化に伴う教育界の趨勢など、教育全般にまつわる諸情報を広く職員に提供し、本校のより良い教育に向けた実践を下支えする。
- (2) 時宜に応じ、かつ負担感を増大させない諸研修を執り行い、職員相互の意思疎通を活発にすることによって、本校職員の集団としての一体感や帰属意識を高める。

2 今年度の目標及び重点

- (1) 実際の教育活動において、スクール・ポリシーを意識する機運を高める。
- (2) グランドデザインに基づいたPDCAの営みへの意識を高める。

3 今年度の活動

- (1) 校内研修
 - ① 昨年度末に職員に対して実施した、本校の課題へのアンケート結果を提示した上でスクール・ポリシーを実際の教育活動に反映させたグランドデザインを作成した。
 - ② 年間反省において、グランドデザインを意識した振り返りをした。その振り返りをもとに、2月の職員会議で教頭・校長から「現状と課題」を指摘していただいた。
 - ③ グランドデザインを基にした年間反省を職員全体で共有し、本校の現状把握に役立てるとともに、本校の今後の課題を洗い出すためのアンケートを実施した。
 - ④ 今日の教育において重視される「探究学習」について、校長からの助言を得た。ファシリテーターとしての教員の立ち位置を確認した。
 - ⑤ 西陵中学校に授業見学に行き、「主体的・対話的」学習スタイルについて学んだ。現実の中学校の授業を肌で感じる事ができた。

(2) センター研修の取りまとめ

岐阜県教育センターで実施されるセンター研修の案内・受付・申込、そして研修に関わる諸手続を行った。

(3) 教育課程講習会の取りまとめ

8月に実施された「教育課程講習会」の案内や申込、提出すべき課題の取りまとめを行った。今年度は国語科の田嶋先生に講習会のまとめを作成していただき、その内容を集約したものを、全職員で共有した。現在の教育界で起きている事象について、その趨勢を職員に把握してもらうよう努めた。

(4) 初任者研修

校内で実施する初任者研修の計画・実践・報告を行った。一年間の学校の流れを考え、初任者が体験的に研修できるよう計画した。

(5) 教育実習の取りまとめ

来年度の教育実習に申込をした学生との打合せ、校長との面談、担当する教科の主任との面談などを行った。

第1年次

1 学年目標

高校生活における基本的な生活習慣と学習に取り組む姿勢を身に付ける。クラスの一員としての自覚を持たせ、土岐紅陵高校への帰属意識を高め、自己理解と自己実現のために主体的に学校生活に取り組む生徒の育成を図る。

2 クラス編成

組	人数	正副担任	教科	担当する係
1	30 (17)	加藤 緑 福井 恵一	数学 保健体育	教務 総務
2	30 (18)	濱田 真成 山田 仁美	理科 家庭・福祉	特活 教育相談
3	30 (17)	細井 祐花 堅野 菜月 白川 功貴	英語 地歴 数学	教務 活性化推進 活性化推進
合計90		細川 万穂 続木 紀美子	理科 地歴公民	学年主任 総務

9月30日現在 ()内は女子の数

3 一年を終えて

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたものの、小中学校時代にその影響を受け、思うように学校生活を送れなかった生徒に向け、高校生としての自立と自律を促すべく、学年目標を「是々非々」と設定し、立場にとらわれない「やるべきこと」「してはいけないこと」の判断が当たり前になる生徒の育成を目指した。

(1) 学習指導

①授業規律の徹底

概ね授業規律は守られており、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。ただ、授業中にスマホを使用したり、授業に集中できず大きな声で私語をしたりと、授業の妨げとなる生徒が若干名みられた。そのような授業態度が思わしくない生徒に対し、なぜ授業を妨害してはいけないのか、高校の授業に向かう姿勢として望ましいのはどのような姿か等、教科担任からだけでなく、学年団での指導・支援を行った。

②提出物の厳守

課題等にはしっかり取り組み、提出期限を必ず守るよう指導した。提出物に対する意識は向上している。

(2) 生活指導

①身だしなみ指導

面接試験に耐えうる身だしなみが原則であるが、高校生活に慣れるにつれ、スカートを折り曲げて短い丈にしての着用や、頭髮の加工や染髪を行う生徒が少なからずみられた。しかし、約2か月に1度の「身だしなみ確認」や日々の生活、学年集会の中での指導で、呼びかけに応じ、その場で身だしなみを整えようとするなど、正しい着こなしへの意識が向上してきている。より良くしていくためには、教員団が粘り強く呼びかけ続けることが必要であると考えた。

②挨拶の励行、礼儀

早い時期から自然に挨拶できる生徒がいる反面、挨拶を受けても黙ってうなずくだけの生徒、また上手く視線が合わせられない生徒も数名いた。高校生らしい明瞭で元気のよい挨拶ができるよう、4月度に行った学年集会の中で、職員室への入退室を例に挙げながら、分離令について指導を行った。挨拶や話し方のマナーについては、より一層の励行をしたい。

③問題行動等への素早い対応

授業中のスマートフォン使用やピアスの装着などで注意することが前期には多かったが、後期には少なくなった。心のアンケート結果や、日々の生徒との関わりの中で、生徒の抱える人間関係の悩みをいち早く察知・聞き取りを行い、その度に生徒支援部長や教育相談、管理職の先生などと連携し、可能な限り最速で対応した。今後もアンテナを高くして、問題行動等に素早く対応していきたい。

(3) 進路指導

進路については「産業社会と人間」（以下、「産社」）の時間を中心に、様々な進路の可能性について考える場面で指導した。

入学時から明確な進路目標を持っている生徒もいれば、2年次からの系列・科目選択で悩むなど具体的な進路目標をイメージできていない生徒もいる。今年度の活動を軸としながら、来年以降の活動の中で目標を設定できるよう指導していく。

① 系列別授業参観

2年次以降の科目選択の参考とするために3年次生の系列別授業を参観した。福祉のベッドメイキングや美術のポスター制作など、特色のある授業を受けている生徒から授業に関する説明などを直接見聞きし、次年度以降の学びを具体的に想像しながら科目選択に繋げることができた。

またそれと並行して、系列・科目選択ガイダンスや、系列長による個別相談会などを実施し、生徒の進路やなりたい姿に合わせて科目選択を行った。

② 職場体験学習

10月9日(水)から11日(金)の3か日間、職場体験学習(高校生インターンシップ)を実施した。

例年、安易な気持ちでのこども園等への体験希望者が多い傾向にあるが、どのような業種・職種・事業所においても職業人が一貫して持ち合わせる「職業観」に気付くため、地場産業である陶器の窯元に多く掛け合い、製造業を候補に必ず入れることにした。

体験中の巡回や事業所向けアンケートからは、「働く」ということに真摯に迎える生徒が多い一方で、挨拶の声の小ささや、指示待ちのような受動的な姿勢が気になるとお声を頂き、今後の進路指導に課題を残す結果となった。

準備時間が十分にとれず、職場体験学習に向かう気持ちを高めきれなかったと反省として、夏季休暇課題「職業人インタビュー」を実施し、職場体験学習に向けた事前学習を検討している。



③進路ガイダンスなど

・分野別ガイダンス(12/5 木)

「保育・幼児教育」「建築・土木」「就職」など2分野の説明を、大学や専門学校等から講師を招いて実施した。生徒は1人2分野の講座を受講して、進路意識を高めることができた。

・就職ガイダンス(1/16 木)

「コミュニケーションの基本を学ぶ」「自分を知り表現する」「さまざまな仕事・働き方を知る」という3つのテーマで話してもらった。

「自分を知り表現する」というテーマについて、1年間で自分の良さを書けるようにネタを探す必要があることを強調された。

・職業別説明会(2/6 木)

「ブライダルの仕事」「スポーツの仕事」など各分野の説明を、大学や専門学校等から講師を招いて実施した。生徒は1人3分野の講座を受講して、進路意識をさらに高めることができた。

・じぶん開発講座

生徒自身の進路選択の材料として、他分野の大学から講師を招いて講演頂いたり、本校の校長による総合型選抜入試に関する講話を聞かせたりなど、「じぶん開発講座」として進路支援部と連携し実施した。四年制大学への早期意識づけを目的とし、多くの1年生が参加した。

(4) 特別活動

① 演劇ワークショップ

文学座から講師を招き、様々な活動を通して、想像力、コミュニケーション能力、表現力の向上を図った。



②社会見学 (5/10 金)

今年度の社会見学は、滋賀県近江八幡市での「マチ探」を実施した。「マチ探」とは、ゲーム感覚で観光地を回り、出題される問題に挑戦することで、地域の伝統・文化・歴史・産業などを学ぶことができる「実体験型の謎解きゲーム」である。

近江八幡の歴史にまつわる謎解きは難易度が高く、昨年度はゴールできた班が少なかったという反省から、今年度は事前学習として近江八幡の歴史について学び、さらに多くのヒントを与えるなどして、学年の9割がゴールにたどり着くことができた。

「マチ探」の後は、水茎焼陶芸の里ですき焼きを食べ、ラコリーナ近江八幡でバウムクーヘンをお土産に買って、学校まで帰着した。

③球技大会 (5/17 金, 11/12 火)

他学年では学年全体でチームをつくるという動きがあったが、1年生は春も秋もクラスごとに男女各2チームをつくって対戦した。

5月の産社の時間を使って、学年でチームビルディングのワークショップを行い、チームワークを高めて臨んだが、2、3年生の連係プレーには一歩及ばず、決勝リーグへの道を逃した。

秋の大会では、春の雪辱を果たすため、各チーム意気込んでいたが、またもや惜しい結果となった。どのチームも懸命に頑張っており、来年度以降が楽しみである。



④紅陵祭（10/31，11/1）

1組は「紅陵ラウンドワン」というテーマで、ゴルフクラブでボールを飛ばし、離れたカップに入れる「みんなのゴルフ」や、左右に流れる的目掛けてボールを蹴り、得点を競う「キッキングスナイパー」等、体験型アトラクションと、ブレスレットやストラップを好みのビーズでつくる手芸体験の2コーナーを展開した。展示部門において優秀賞として表彰された。



2組は、「映えスポットラリー」というテーマで、写真映えする飾りつけスポットを校内に数か所に配置し、写真を撮りながら各所をめぐるアトラクションを制作した。キラキラとした背景や色とりどりのバルーンの前で記念撮影する生徒が多く見られた。



3組は「恐等学校」というテーマで、お化け屋敷を制作した。順路の途中に音楽室や保健室を模した部屋をつくり、お化けに扮したキャストが驚かせてくる。展示部門において優良賞として表彰された。



⑤窯元まつり（下石どえらあええ陶器祭り）

土岐市下石町の「窯元まつり」が10月26，27日に行われた。1年生はオートメーション中心で陶器を大量生産するいわゆる「工業型」の窯元と、ひとつずつ作家が手でひねり施釉する「工芸型」の窯元をそれぞれ巡る体験をし、それをレポートにまとめた。優秀なレポートは、1月の課題解決学習発表会の関連行事である紅陵エキシビションで展示された。

第2年次

1 学年目標

高校生活における望ましい生活習慣と学習習慣を身に付けさせる。2年次生の一員としての自覚を持たせ、土岐紅陵高校への帰属意識を高め、自己実現のために主体的に学校生活へ取り組む生徒の育成を図る。

2 クラス編成

組	人数	正副担任	教科	担当する係
1	30 (15)	坂 野 未 来 小田中 悠 真	家庭 商業	教務 教務(生支)
2	30 (16)	伊 藤 翔 真 石 崎 吉 一	健康 国語	活性化 研修
3	30 (15)	内 山 久 子 田 内 香 織	英語 家庭	進路 教育相談
合計 90		加 藤 健 二 鈴 木 茂 博 安 藤 みゆき	理科 芸術 理科	学年主任 総務 総務

9月30日現在 ()内は女子の数
3組に休学者1名(男子)含む

3 一年を終えて

(1) 学習指導

①学習指導全般について

概ね授業規律は守られており、落ち着いた雰囲気授業が行われている。ただ、授業中にスマートフォンを使用する生徒がいたり、着信音が鳴ったりということが何度かあり、スマートフォンの使用マナーを守ることの難しさを感じている。

前期期末考査での欠点者に対して、次の定期考査では絶対に欠点をとらないよう説諭したこともあり、後期中間考査の欠点者は少なくなった。多少なりとも、テストに向けて机に向かって勉強してくれたのではないかと考えている。勉強に対して地道に努力する習慣を付けさせたい。

②来年度を見据えた学習の取り組み

来年度は全員が課題解決発表(探究)をすることが決まり、就職希望者に対する学習指導の時間が縮減されることが予測された。そこで、「一般常識サポートドリル」の確認テスト1回目を冬休み後に、2,3回目を春休み後に設定した。また、「総合的な探究の時間」の3時間を使って就職希望者に対して「SPIベーシック問題集」に取り組んだ。

(2) 生活指導

①身だしなみ指導

約2か月に1度の「身だしなみ確認」や朝の登校時の呼びかけで、ある程度は落ち着いた身だしなみになっているが、短すぎるスカート丈や過度な化粧に対して、教員団が粘り強く呼びかけ続けていく必要がある。

②問題行動等への素早い対応

中だるみの2年生という言葉通り、授業中のスマートフォン使用やピアスの装着などで「生活改善書」指導となった生徒が昨年度と比較すると大幅に増えた。また、人間関係で苦しんだ生徒もいたが、生徒支援部長や教育相談の先

生などと連携し、できるだけ素早く対応してきた。今後もアンテナを高くして、問題行動等に素早く対応していきたい。

(3) 進路指導

進路支援部が企画した行事は、次の通りである。

- 5月 クレペリン検査・一般職業適性検査
- 6月 進路分野別説明会
- 11月 企業見学バスツアー
- 12月 学校見学バスツアー
- 1月 進路ガイダンス
- 2月 就職ガイダンス

①進路分野別説明会[6/27(木)]

ライセンスアカデミー主催で、1時間目は「進路別パネルディスカッション」、2時間目は「仕事・資格77+3種類パズルワーク」を実施した。特に、2時間目のグループワークは、仕事・資格の説明文から仕事・資格名を答えるというもので、思いの外盛り上がり、多くのグループが完答した。

②企業見学バスツアー[11/21(木)]

1組は株式会社アイシン瑞浪と土岐ダイナパック株式会社、2組は株式会社愛工機器製作所中津川工場と株式会社ジェイテクトギヤシステムみたち工場、3組は三光化成株式会社と大豊工業株式会社岐阜工場を訪問した。各会社の説明をしっかりと聞くことができた。また、工場内の音や匂い、そして、それぞれの会社の雰囲気を知ることができた。

③学校見学バスツアー[12/5(木)]

個々の生徒の希望により、2校の模擬授業を体験した。

Aコースは名古屋産業大学と{あいち福祉医療専門学校 or 名古屋工学院専門学校}、Bコースは名古屋文理大学と{名古屋医健スポーツ専門学校 or ELIC ビジネス&公務員専門学校}、Cコースは{あいち造形デザイン専門学校 or 名古屋外語大学・ホテル・ブライダル専門学校}と{名古屋デザイン&テクノロジー専門学校 or あいちビジネス専門学校}であった。

第一希望ではない学校の模擬授業に対しても真剣に取り組んでいる姿が窺われた。



【三光化成株式会社にて】 【名古屋工学院専門学校にて】

④進路ガイダンス[1/16(木)]

進学希望者は3つの学校のブースで、就職希望者は企業パネルディスカッションを聞いた後に2つの企業ブースで説明を聞いた。専門学校のブースに参加した生徒の中にはオープンキャンパスの参加予約をする姿も見られた。

⑤就職ガイダンス[2/13(木)]

ハローワークから講師を招いての講義とワークショップを行った。1時間目は高校生の就職活動と大学生等の就職活動の違い等について丁寧に説明をもらった。

2時間目は、自己PR文を作成した。単語をワークシートに書き入れるだけで、自然に自己PR文ができてしまう教材だったので、作文が苦手な生徒にとっても有意義な時間となった。

⑥次年度科目選択

科目選択の参考にしてもらうため、5/30(木)にそれぞれの教科担当の先生から科目の内容について説明をもらい、これをもとに生徒が科目選択を行った。予定人数をオーバーした科目もあり、三者懇談や二者懇談等でかなり調整ができたが、陶芸基礎など3科目はどうしても調整できず、くじ引きでの決定となってしまった。生徒の希望をすべてかなえるのは難しいが、希望通りに選択できなかった生徒も納得していると思うので、来年度は気分を一新して、自分の選択した授業をしっかりと受けてくれることを期待している。

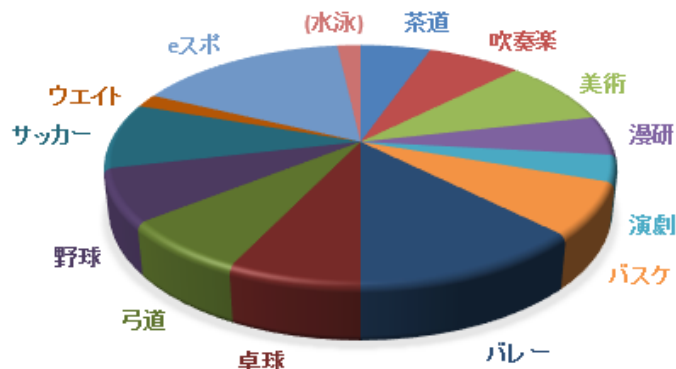
⑦進路支援部とは別にリクルート主催で、オープンキャンパスや学校調べについての説明等をもらった。

6/13(木)に実施した「オープンキャンパス調べと申込」は全員参加で、1/9(木)「学校調べ」と2/6(木)「比較検討シート」は進学希望者のみの参加とし、就職希望者には「SPIベーシック問題集」に取り組ませた。

(4) 特別活動

①部活動加入状況(2月現在)

2年生全体の約2/3の56名(内30名が運動系)の生徒が部活動で頑張っている。下の円グラフは、マネージャー等を含んだ各部活動の人数を表したもので、どの部活動も数人ずつだが地道に頑張っていることがわかる。



②社会見学[5/10(金)]

修学旅行グループ研修の練習も兼ねて、高山別院駐車場を起点に、10:30~14:30の4時間の高山市内グループ研修を行った。天候もよく楽しく1日を過ごすことができた。

事後アンケートの「旅行の計画を立てる上で大切なことは、何だと思いますか?」という質問に対して、「事前にどういう施設があるのか、どんなものが買えるのかを調べて行くことが、とても大事というのが分かりました。」

「あまり細かく決めすぎず、時間に余裕を持つ。」などの回答があり、この経験を修学旅行の計画時に生かしてくれることを期待したい。

③球技大会[5/17(金)、11/12(火)]

春季は、クラスごとにチームをつくって対戦し、勝ち点によってクラスの総合順位が決まる方式で実施された。その結果、男子2-2Aが3位、3組が総合3位となった。

秋季は、学年全体でA~Fの男女各6チームを編成して勝敗を競う方式で実施され、男子のAチームが3位となった。このチームは普段から練習していたが、3年生のチームには力が及ばなかった。来年度は、ぜひ優勝を狙ってほしい。



④紅陵祭(10/31, 11/1)

1組は「ハロウィンだぜbro」、2組は「IT~紅陵生が消える町に"それ"は現れる~」、3組は「アラジェット」というクラス企画のもと、窯元祭りの準備もしながら紅陵祭の準備も行うというタイトな日程だったが、どのクラスも熱心に取り組んでいた。

1組のもぐらたたきに熱中し、2組のお化け屋敷の凝った作りに感心し、3組のジェットコースターを作ろうとするチャレンジ精神にエールを送りながら見学させてもらった。今年度は、3年生の2クラスが演劇を行ったため、「ステージ部門」と「展示・体験部門」に分けて審査表彰が行われた。その結果、2組が「展示・体験部門」で最優秀賞を勝ち取った。



⑤窯元まつり(下石どえらあええ陶器祭り)[10/26, 27]

2年生は、とっくりグラウンドでの「あそびのひろば」を運営した。4月に、祭りの実行委員の伊藤さんから、陶器の産地としての下石町の成り立ち等を説明してもらったところから取り組みがスタートした。各クラス3つのブースを担当することになった。射的・ボールショット・新聞紙プール・輪投げ・玉転がし・松ぼっくりけん玉・的あてゲーム・イラストづくり体験・シャカシャカレジンの9つである。

これらの企画を考えるとところから始まり、どんな物がどれくらいの数必要なのか、予算は、運営方法は、そして製作にと、次々に課題をこなしていった。さらに、「あそびのひろば」についてのチラシを作成し、下石小学校の昼の放送で呼びかけも行った。また、前日には運動系の部活動の男子に、テントを張ってもらったり、作業机を組み立てたりしてもらった。皆が本当に熱心に準備に取り組んだ。



【「あそびのひろば」のチラシ】

当日、係の生徒たちは、会場に来た子どもたちを積極的に誘い、子どもたちと楽しそうに遊んでいた。



下の写真は、1月に校内で実施された「エキシビション」で展示された「あそびのひろば」のポスターレポートである。



⑥修学旅行

当日の様子は、PTA会報「紅陵」12月号に載せていたので、事前学習についてまとめておく。

昨年度、沖縄の地理や歴史・文化などを学習した後、「沖縄本島で行ってみたいところ」を調べ、1枚のプリントにして発表会を行った。また、映画「サトウキビ畑の唄」を鑑賞し、戦争当時の沖縄を想像することができた。

今年度は、昨年度調べた「沖縄本島で行ってみたいところ」をもとに、タクシー研修の研修先を決定させた。もっとバラエティに富んだ行き先を期待していたが、アメリカンビレッジなど定番の行き先を選んだグループが多かった。

9月に中部学院大学の杉原茂男先生から「今を生きる私たちにできること～見すえて想像して～」と題した沖縄戦についての講演を聞き、戦争の悲惨さを深く胸に刻むことができた。そして杉原先生には、修学旅行1日目の平和学習を実施する上での基盤をつくっていただいた。



PTA会報にも書かせてもらったが、旅行中の4日間は誰一人として集合時刻に遅れることなく、すべての行程を順調にこなすことができた。これは、本当に素晴らしいことだと思う。

⑦西陵校区青少年育成町民会議 青少年の主張[6/15(土)]

この大会には、毎年2年生から代表を出すようになっており、今年度は、森あおいさんに「夢と向き合うということ」というタイトルで発表をしてもらった。イラストレーターになる夢をかなえるため、郡上から本校に入学して頑張っているという内容で、堂々と発表をしてくれた。



振り返ってみれば、修学旅行・窯元祭り・紅陵祭・秋季球技大会と怒涛の日々を過ごしてきたが、生徒たちは良く動き、成長したと感じている。来年度、最高学年として、下級生の見本となるような振る舞いを期待したい。

第3年次

1 学年目標

自分の将来への確たる理想を掲げ、それに向かって真摯に努力できる生徒の育成を目指す。

基本的な生活習慣の確立・社会人としてふさわしいマナーの養成・主体的に知識、技能を身に付けようとする態度の育成を目指す。

また、人間として他者を思いやり、社会をより良いものにしていこうとする意識を養い実践力を育成する。

2 クラス編成

組	人数	正副担任	教科	学年の主な仕事
1	29 (18)	佐藤 純子 薄田 直樹	英語 商業	正担任 副担任
2	29 (18)	荻曾 翔 稲垣あけみ	保体 家庭	正担任 副担任
3	26 (14)	田嶋 大樹 井上裕美子	国語 美術	正担任 副担任
計	84 (50)	野々村 健 高橋 俊和 高田 実香 水野 健靖 貝川 和生	商業 音楽 美術 美術 総合	学年主任 総務 記録・集会指導 記録・集会指導 生徒指導

()内は女子数

3 1年を終えて

最上位学年となって、入学後これまで見てきた3年生が、手本となるべき行動をしてこなかったことから、自分たちがどのような行動をすべきなのかを、自ら考えていかなければならない状態である。自分たちが、土岐紅陵高校を再構築する立場であることを少なからず認識しており、その行動が全体としてとれるように導く必要性を感じながらの1年間の開始であった。しかしそのような心配の必要性がないほどにしっかりと紅陵生としての手本となれる生徒がほとんどであった。

(1) 学習指導

昨年と同様に学習について、以下の点を重点的に指導した。

①基礎学力の定着

基礎学力の定着を図るための取組みとして、昨年度から継続しているスタディサプリによる学習を推進した。計画的に学習を進める生徒もいれば、課題を与えられないとできない生徒もいたことは来年度以降の課題となる。ただ、生徒の感想としてはやったらやったぶんだけ力が付いたと言っていることには成果を感じた。

②授業規律の徹底

多くの生徒は、授業規律を守れていたが、コロナによる出席停止や防寒着の緩和などもあり、服装等に締まりがない生徒も見うけられた。ただ、昨年度までと違うことは、目があったり声掛けをすれば素直に直してくれるところにある。少しずつでもルールを守る意義と大切さが理解されていたことは嬉しい事である。

(2) 生活指導

昨年同様、生活について、以下の4点を重点的に指導した。

①身だしなみ確認

面接試験に耐えうる身だしなみが原則であるが、一部の生徒を除いては、大きく逸脱する生徒はいなかった。生徒の自覚を促すことに効果を求めた。将来社会人になったときにTPOを意識して行動できるように、自らを律して正しい制服で生活をするように指導した。

②挨拶の励行、マナーや言葉遣い

自然に挨拶できる生徒が多い。挨拶を受けても黙ってうなづくだけの生徒、また上手く視線が合わせられない生徒もいる。さらに、他者との意思疎通をする際に、自分の気持ちや状況を礼儀正しい言葉で伝えることができる表現力である。挨拶や話し方のマナーについては、より一層の励行をしたい。

③時間厳守の徹底

学校行事などの集団行動としての集合時間は厳守徹底されてきた。ただし、朝の登校においては習慣的に遅刻をしてしまう生徒や、時間ギリギリで登校してくる生徒もいた。

昨年までと違うことは、遅刻をしないように努力する姿勢と、時間を守ることの社会的必然性を理解し始めたことにある。

④ルールの中で楽しむ生活

ルールというものは社会を形成し、個人を守ってくれるものと理解し始めた。

楽しいことは大切なこと、しかしルールの中で思いつき楽しむことが、工夫を生みだし、協調性を育むことにつながることを伝え導き徹底した。

生活面においては、1年間で大きく成長して、自らを律することができるようになり、思いやりを持って人と接することができるようになった。

(3) 進路指導

「産社」と「LHR」の時間（進学コースと就職コース）及び課題解決（就職コースのみ）の時間を使い、進路決定に向けての指導を行った。

以下、外部を取り入れた具体的指導の記録

2024 年

① 4月18日 奨学金説明会

② 4月19日 就職者進路ガイダンス
(進路支援部長より)

③ 4月22日～24日 第1回就職者面接指導

④ 4月25日 第1回 彩プロジェクト開始
(講師：中京学院大学)

⑤ 5月2日 第2回 彩プロジェクト

⑥ 5月9日 合同企業説明会
(セラトピア土岐)

⑦ 5月9日 進路ガイダンス

⑧ 5月16日 第3回 彩プロジェクト
確認テスト1回・2回

⑨ 5月23日 第4回 彩プロジェクト
確認テスト3回・4回

⑩ 6月13日 第5回 彩プロジェクト

⑪ 6月20日 第6回 彩プロジェクト
SPI・常識適性検査
個人写真撮影

⑫ 6月27日 第7回 彩プロジェクト
SPI・常識適性検査
夏の体験入学準備

⑬ 7月11日 第8回 彩プロジェクト
SPI・常識適性検査

⑭ 7月11日～18日 第2回面接指導

⑮ 7月19日～26日 就職者三者懇談

⑯ 7月29日 第1回就職選考会

⑰ 7月30日 就職選考結果通知

⑱ 8月2日 応募前企業見学説明会

⑲ 8月8日 ハローワーク就職ガイダンス
(入社試験の心構えと対策・面接指導)

⑳ 8月22日 履歴書清書提出

㉑ 8月27日～30日
多治見法人会就職面接指導

㉒ 就職応募書類提出

㉓ 9月12日 就職者激励会

㉔ 9月17日 就職試験開始～

㉕ 9月9日 第1回進学選考会

②⑥ 9月25日 第2回進学選考会

②⑦ 受験後：受験報告書作成

②⑧ 内定通知後： 礼状作成

②⑨ 10月～就職試験のまとめ
(掲示用企業ポスター作製)

③⑩ 10月17日 第1回金融セミナー
(東海労働金庫)

③⑪ 12月5日 テーブルマナー

③⑫ 12月6日 第1回金融セミナー

③⑬ 1月9日 スタyling・セミナー
(AOKI・ポーラ化粧品)



②社会見学 (5月10日：ナガシマスパーランド)



(4) 特別活動

① 学年レク (5月9日)
バレーボール大会を実施した。





③春季球技大会 (5月17日)



④文化祭・紅陵祭 (10月31日、11月1日)





⑤秋季球技大会 (11月12日)



⑥課題研究発表会 (1月24日)



別紙様式 3

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年5月28日(火) 13:30～15:30
- 3 開催場所 土岐紅陵高等学校 総合学科棟3階 会議室
開催にあたり、委員による「演劇ワークショップ」参観を実施した。
- 4 参加者
会長 土本 泰 至学館大学職員
委員 伊藤 公一 美濃文山窯
加藤 直美 土岐市立西部こども園 園長 (書面参加)
加藤 美由紀 本校PTA副会長
神崎 弘範 土岐市立西陵中学校 校長 (書面参加)
後藤 淳 土岐市立下石小学校 校長 (書面参加)
土本 訓子 土岐市市民活動課 (書面参加)

※会議の開催及び協議については、欠席者から書面にて参加する旨を得ている。

学 校 側	田中 誠二	校長
	木澤 朗	教頭
	塩崎 勉	事務長
	金子 浩隆	教務部長
	坂崎 陽祐	生徒支援部長
	大宮 学	進路支援部長
	井上 裕美子	活性化推進部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営の基本方針等について

- ・「単位制教育課程」「総合学科」の特色説明
- ・校訓、校章の紹介
- ・教育目標、スクールポリシー、基本方針、運営の重点の説明
- ・各系列の説明及び日課の変更の説明

意見1：本校のカリキュラム構成の考え方は、自分の大学時代のカリキュラム構成に近い。大学時代は、学科やコースの枠を超えて授業選択ができた。自分の専門分野以外の、他分野の学びは、社会に出てから役に立つことが多々あった。専門分野以外の学びを如何に自分の興味・関心がある学びに結びつけることができるかが重要である。

意見2：人付き合い・モノづくりのための人間工学・コミュニケーション方法など、様々な学びを経験し、あらゆる学びを総合することで視点が変わる。本校の総合学科の学びを推し進めてほしい。

意見3：自分の好きな学び、幅広い進路、選択肢が広くあるカリキュラムでとてもよい。

意見4：保護者の目線で言うと、高校卒業後の子どもの様子や行動、人間関係の構築の仕方を見れば、高校時代の本校の指導は大きな効果があったと感じている。

(2) 学校概要説明について

- ・職員構成、運営機構
- ・生徒構成
- ・教育課程
- ・年間行事計画
- ・分掌説明（総務部、生徒支援部、進路支援部）

意見 1：部活動帰りなどの下校時の身だしなみが、もう少し規律があってほしい。

意見 2：路線バスのバス停が敷地内に設けられたのは、大変ありがたい。一方で、バスの敷地内の出入りと、保護者送迎による自家用車の出入り時間が重なり、心配な場面がある。一考をお願いする。

意見 3：学校の情報発信について、HPに日々最新のトピックスが更新されている。PTA役員の視点から、頻繁にHPで学校行事の記事を目にしているが、一般の保護者はHP閲覧の習慣がない。見れば子どもたちの学校の様子が分かり、HP閲覧の機会も増えるのではないかな。もっと告知をした方がよいのではないかな。

➡ 「すぐーる」の登録率がほぼ100%なので、「すぐーる」とリンクさせて、HPが閲覧できるように案内している。

(3) スクール・ミッションの策定について

意見 1：本校の概要がようやくわかってきた。今後の意見交換の中で、スクール・ミッション策定に向けて意見を出したい。

意見 2：本校の独自性、スクール・ミッションから学校の様子が伝わるものができるとうい。

➡ 逆説的に「本校がなくなったらどうなるか。この地域から、忽然とこの学校が消えたら……」と考えると「本校がどのような役割を求められているか？」が見えるのではないかと考えている。そういった観点からも意見がほしい。

(4) 演劇ワークショップ見学及びその他の意見について

意見 1：高校生は不安定な時期であり、心身が安定しない。保護者の立場から、本校に求めるのは「不安定な生徒を上手く学校の中に取り込み、安定させて社会に送り出して欲しい。」である。そして、物事を安定させる鍵はコミュニケーションであると考えます。

意見 2：演劇で最も大事なことはボディランゲージである。「話す前に『表情で表す』『行動で示す』」ことを、どのように演劇ワークショップで高校生に伝えるのかに興味深く見た。

意見 3：アクティビティの一つに注目すると、条件の違いによって「仲間の思いを汲み取る」「行動によってお互いのコミュニケーションを取る」との意図が読み取れた。演劇ワークショップは大変に興味深い。

意見 4：1年次の早期に仲間づくりを進めるには、演劇ワークショップは効果的である。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会は、7人の委員（新任2人）で開催した。会長選出に続いて演劇ワークショップを見学した後に、会長を議長として議事を進行した。今年度の学校運営の基本方針等については、全委員より承認が得られた。多くの視点から意見を頂き、今後の学校運営に生かしたい。またスクール・ミッションについては、策定の意図を説明した。本校の存在意義を表現できるスクール・ミッションの協議を深めたい。

9月の第2回学校運営協議会では、新たに生じた課題とその対応及び前期の総括、スクール・ミッションの原案について協議する予定である。

別紙様式 3

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年9月13日(金) 13:30～15:30
- 3 開催場所 土岐紅陵高等学校 総合学科棟3階 会議室
開催にあたり、委員による授業参観(第5限)を実施した
- 4 参加者

会 長	土本 泰	至学館大学職員
委 員	伊藤 公一	美濃文山窯
	加藤 直美	土岐市立西部こども園 園長
	加藤 美由紀	本校PTA副会長
	神崎 弘範	土岐市立西陵中学校 校長
	後藤 淳	土岐市立下石小学校 校長 (欠席)
	土本 訓子	土岐市市民活動課
学 校 側	田中 誠二	校長
	木澤 朗	教頭
	塩崎 勉	事務長
	金子 浩隆	教務部長
	坂崎 陽祐	生徒支援部長
	大宮 学	進路支援部長
	井上 裕美子	活性化推進部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクールミッションの策定について

- 意見1: 事前にもらった資料で学校原案を一読したときに、言葉の選び方に違和感があった。個人的に解釈を深めた一方で、学校の説明で原案の意図を詳しく知ることもできた。受け取り手によって解釈が分かっても良いのではないかと感じられた。
- 意見2: 言葉の選び方に「ひっかかり感」があるが、敢えてそこに意味を持たせようという意図が感じられた。これを職員及び生徒が十分に共有できるとよい。
- 意見3: 「主体的」には、自己選択・自己決定・自己責任を含んでいる。「主体的」の意味を職員及び生徒が深く考えてほしい。ミッションに含まれた言葉・理念を丁寧に共有したい。
- 意見4: 「スクールミッション」の策定過程で、関係者へ問いかけることにより、各々が本校の存在意義・社会的役割・目指すべき学校像を見つめ直す機会となり良いことであった。
- 意見5: 学校原案は、本校の目指す姿や取組みをきれいに表している。手の届くところで、目指す姿を設定している良さを感じる。最後を言い切り型にして、強い意志を表現できた。
- 意見6: 「多様性」は「共通の理念」がないと多様にならない。「スクールミッション」に「共通の理念」が表れている。本校は「多様」でありながら「マインド」に一貫性がある。
- 意見7: 原案を作ってみようとしたが、難しかった。誰に向けて発信するかによって、表現も変わる面もあり、難しいと感じる。

別紙様式 3

意見 8 : スクールミッションは、誰に向けて発信するのか。

⇒ 特定の対象者がいるのではなく 本校の存在意義・社会的役割・目指すべき学校像を学校内外に対して分かりやすく示すものである。教育活動を実施する上での基礎となる考え方を共有するために発信する。

意見 9 : 「スクールミッション」の使われ方・ねらいが不透明で疑問に感じる。

(2) 授業参観について

意見 1 : 10月の「窯元まつり」で関わるが、目的意識がある生徒が多い。本日の授業参観で本校の現状を見て、先生と生徒の柔らかい雰囲気の間隔感を感じながら、様々なことに合点がいった。

(3) 4～8月の学校運営について

意見 1 : 6月の西陵校区の本校生徒の発表を聞いて、中学生が本校に進学したいと思わせる魅力があることを実感した。

意見 2 : 生徒から「じぶん開発講座」で開講して欲しい内容等の要望はあるか。または生徒に訊く機会はあるのか。

⇒ まだ立ち上げたばかりで教員発案で開講している。「講座」というよりは、生徒が主体的に活動できる「環境」を設定している。生徒自身にとって興味・関心がある「講座」であれば、そこに生徒が集まって来る場であると考ええる。

(4) 9月以降の学校運営について

意見 1 : 生徒の「窯元まつり」で見る姿は学校とは異なる。ぜひその姿を目にして欲しい。

(5) 今後の学校運営に関わる構想と展望・学校活性化に関する意見交換

意見 1 : 地域との橋渡しを、行政としても支援したい。

意見 2 : 本校とは、20年以上前から関わりを持っている。以前と比較して、生徒が朗らかで自然体であり、学びの場としては良い環境であると感じる。

意見 3 : 挨拶が、爽やかでしっとりしている。昨年と異なり、生徒指導の成果が表れている。

意見 4 : 下校時の服装は、地域の方々が見ていることも意識すべきだ。

意見 5 : バスの校地内乗り入れは素晴らしいことだが、それに伴って保護者送迎時の乗降マナーに注意喚起及び指導が必要である。

意見 6 : 中学生は「高校説明会」「ホームページ」を頼りにしている。

意見 7 : ホームページでは、生徒の活躍の大小に関わらず見逃さないで披露していて、素晴らしいと感じる。

意見 8 : 中学生が本校に進学する際に選択する材料に、教育内容の充実・総合学科としての魅力が挙げられている。積極的な情報発信や中学校への説明が功を奏している。

意見 9 : 地域に眠っている豊富な人材資源をもっと活用したい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会は、7人の委員のうち6人の出席により開催した。今回は、4月以降の主な学校行事と日常の学校生活を紹介することで本校の教育活動の理解を深めることと、スクールミッションの策定（学校原案の協議）を趣旨とした。

意見交換では、各委員から多様な視点で好意的かつ建設的な意見が寄せられ、協議を深めることができた。

1月の第3回学校運営協議会は、土岐市文化プラザにおいて3年次生徒の課題解決学習発表会を参観した後、1年間の総括と来年度の学校運営基本方針等を協議する予定である。

別紙様式 3

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年1月24日(金) 9:00～13:00
- 3 開催場所 土岐市文化プラザ 第一研修室
(【課題解決学習発表会】を参観後、会場内の別室で会議を開催した。)
- 4 参加者

会 長	土本 泰	至学館大学職員
委 員	伊藤 公一	美濃文山窯
	加藤 直美	土岐市立西部こども園 園長
	加藤 美由紀	本校PTA副会長
	神崎 弘範	土岐市立西陵中学校 校長
	後藤 淳	土岐市立下石小学校 校長 (欠席)
	土本 訓子	土岐市市民活動課
学 校 側	田中 誠二	校長
	木澤 朗	教頭
	塩崎 勉	事務長 (欠席)
	金子 浩隆	教務部長
	坂崎 陽祐	生徒支援部長
	大宮 学	進路支援部長
	井上 裕美子	活性化推進部長 (欠席)

5 会議の概要(協議事項)

(1) 後期の学校運営

- ・<課題解決学習>発表会参観
- ・各種行事等

意見1: よい発表ばかりだが、課題解決「学習」なので、もう一歩先へ進めて欲しい。自分たちの「想い」の表現が少なかった。結果ありきの研究ではなく、研究過程で新たな課題を見つけ、そこで何を考えたのかが表現されるとよかった。

意見2: 興味のある事柄を「知ろう」とする。「知る」ために手段と方法を考える。それを仲間と協働して研究に取り組む。今後社会生活を営む上で必要な力を身に付けるための取組である。

意見3: 聞いている生徒が「親和的」「受容的」で、発表を聞く姿が良かった。聴衆の生徒に「統一感」があって、学校全体が同一の向きに向いている。

意見4: プレゼンテーションにおいて「他者性」→ 聞き手の立場で考える
「見せる」「伝える」→ アウトプットを大事にする

別紙様式 3

と、もう一段階上のレベルに到達する。

意見 5：保護者に対して校外の「発表会」だけではなく、校内の「エキシビジョン」がどれほど告知されていたか疑問である。またエキシビジョンの発表の質のブラッシュアップを望む。

意見 6：昨年の発表も見たが、1年間で大きな変容を見せた生徒がいて感動した。また、中学時代を知る生徒の大きな変容を目の当たりにし、自分の人生を切り開いている生徒が存在していることに教育的な意味があり、高校で育っていることを実感できて感動した。

(2) 令和6年度の学校評価

・自己評価

令和7年度に向けて

・学校運営基本方針等 ・校内組織編制 ・スクール・ミッションの策定

意見 1：地域の祭りへの参加の様子で、地元の方々や訪問者からも高い評価を得ている。また、祭りで学んだことをまとめ、発表に繋げられていることが素晴らしい。これらをさらに来年の成果に結びつけるために模索したい。生徒とともに地域活性化のために協力体制を作りたい。

意見 2：異なる選抜方法で入学した生徒の、入学後のそれぞれの様子を追跡してほしい。

意見 3：行事の関係と思われるが、頻繁に短縮授業がある。

意見 4：冬も3者懇談にしてほしい。特に2年次の冬は、進路決定のための情報収集及び学校⇄家庭の考えの擦り合わせがしたい。

意見 5：発達が年齢に追い付いていない生徒がいるが、高校時に発達が年齢に追い付くことで多様な進路が提供されていてうれしい。

意見 6：中高連携で楽しく交流ができています。先生方の「学校を良くしたい」「子どもたちを育てたい」という気概が伝わってくる。

意見 7：タブレット端末は、リテラシーを高めることより、使い続けることが大事である。

意見 8：スクール・ミッションの原案作成で、「人材」ではなく「人」としたところに拘りが窺えてうれしい。

意見 9：1年次学年部の自己評価項目「落ちついた雰囲気ですべてができていますか」がC評価であることに引っ掛かる。こういった面から生徒指導面で学校経営に綻びが生じないようにしてほしい。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会は、7人の委員のうち6人の出席により開催した。土岐市文化プラザサンホールにて3年次代表生徒の「課題解決学習発表会」の参観し、その後研修室にて会議を開催した。

まず後期の学校運営について「課題解決学習発表会」を中心に建設的な意見をいただいた。続いて、学校各分掌の自己評価をもとに、各委員から今年度の学校運営について、多様な視点から意見をj得て協議を深めた。また協議を進めてきたスクール・ミッションについても承認を得ることができた。

最後に、令和7年度の学校運営について、今年度の学校運営を基盤としつつ、学校運営協議会の意見を含めた学校関係者評価を加味して、改善を図ることを確認した。

令和6年度 自己評価

次ページ以降に、各分掌および学年会の教育活動の自己評価をまとめた。
各担当が、本校の「学校教育目標」「スクールポリシー」に照らしながら、

- ➡ CA：昨年度の「成果・課題」および「改善方策案」をもとに
 - ➡ P：今年度当初に目標を掲げ
 - ➡ D：その達成に向けて具体的に取り組み
 - ➡ C：今年度の成果と課題を分析
 - ➡ A：来年度への「改善方策案」を示した。
- この自己評価は、
- ・11月に実施した、生徒及び保護者を対象とした「学校生活に関するアンケート」の意見も、学校関係者の評価として自己評価の材料としている。
 - ・今後は、この自己評価および学校運営協議会の委員の方々の意見を取りまとめた「令和6年度土岐紅陵高校【学校関係者評価】」を、来年度の学校運営に反映させる。
 - ・この【学校関係者評価】は本校HPに掲載する。

1 学校教育目標	1 自己の在り方や生き方を主体的に考えるとともに、思いやりのある人間を育成する。 2 社会で求められる資質や品格を身に付けた人間を育成する。 3 地域社会に貢献できる人間を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・ 基本的な生活習慣、倫理観及び社会的なマナーを身に付け、互いの多様性や人権を尊重し思いやる心と生命、自然、文化を大切にする生徒 ・ 自己の可能性を信じ、自己を成長させるため、生涯にわたり主体的かつ意欲的、継続的に学習する努力を惜しまない生徒 ・ 思考力と適切な判断力を身に付け、社会の進展に主体的に対応するとともに、他者と協働して豊かな地域・社会を創造する生徒	・ 一人一人の個性、感性及び長所を伸ばすための多様な科目選択を可能にする教育課程の編成と、ICTを有効に活用した粘り強く丁寧できめ細かな指導の実施 ・ 地域社会の一員としての自己有用感を持たせるとともに、主体性や協調性を育成するため、地域社会と連携・協働した体験的・実践的な活動を積極的に実施 ・ 思考力、判断力、表現力等を育成するための課題解決学習を中心とした探究的な学びの推進	・ 互いの違いや良さを理解し、互いに認め合う努力をするとともに、自らを律しつつ、他者を思いやり、他者とともに協調する努力ができる生徒 ・ 自己の生き方について主体的に考えるとともに、将来の多様な進路実現に向けて学習活動、部活動、学校行事などに真面目に取り組む生徒 ・ 奉仕活動や体験活動等の地域活動を通して地域社会と積極的に関わり、仲間とともに人間性、社会性を高めようとする生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習支援・授業改善・組織運営）			
4 現状の分析	<div>○「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。」生徒アンケート87%肯定</div> <div>○「授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。」生徒アンケート81%肯定</div> <div>○「ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。」生徒アンケート79%肯定</div> <div>○「教員は、授業をとおして、学力が向上するように指導している。」保護者アンケート85%肯定</div> <div>○「学校は、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している。」保護者アンケート94%肯定</div> <div>○「学校は、授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている。保護者アンケート85%肯定</div> <div>○「定期考査成績不振者数（素点）」の減少。R 5 年度160人。R 6 年度99人。（のべ人数）</div> <div>▲「授業でタブレット端末をもっと活用したい。」生徒アンケート64%否定</div>			
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<div>・現行の学習指導要領において、3年次生の観点別評価方法を確立する。</div> <div>・地域や外部と連携し「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学びができるように授業改善に取り組む。</div>			
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
<div>・観点別評価の重みと評価項目を計画する。</div> <div>・地域や外部と連携した授業を展開する。</div> <div>・学ぶ楽しさを感じられる教育活動の充実を図る。</div>	<div>・観点別評価の計画</div> <div>・地域と外部との連携</div> <div>・授業評価で肯定的な結果が70%以上</div>			
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価		
<div>(1) 各教科で1・2年次の観点別評価の重みと評価項目を見直し、3年次生の観点別評価方法の計画をする。</div> <div>(2) 協働的な学びを充実するために、地域と連携した体験的な授業を行う。</div> <div>(3) 外部や他教科との連携やICTを活用した教育活動を実践する。</div>	<div>・年度当初に各教科で観点別評価の見直しと計画ができたか。</div> <div>・地域と連携した授業を行うことができたか。</div> <div>・生徒アンケートの授業評価で肯定的な結果が70%以上か。</div>	<div><div>A</div> B C D</div> <div><div>A</div> B C D</div> <div><div>A</div> B C D</div>		
12 成果・課題	<div>○【検定合格】全商ビジネス文書実務検定1級合格</div> <div>実用英語英検定2級合格</div> <div>実用英語英検定準1級合格</div> <div>○じぶん開発講座「放課後学習室」と「SST」の実施</div> <div>○中京学院大学と高大連携の調印</div> <div>○東鉄バスのダイヤ改正の要望を提出。10月7日ダイヤ改正。ほぼ実現</div> <div>○令和7年度入学生の教育課程について、現状の課題を考慮し一部変更することを決定した。</div> <div>○美術実習室の整備を行った。また、男性職員更衣室、女性職員更衣室及び職員休養室の整備を行った。</div> <div>○管理関係と気象警報の対応について内規の見直しを行った。</div> <div>▲1年次の定期考査成績不振者（素点）が目立つ。1年47人 2年39人 13人。</div> <div>▲授業改善を行い、さらに基礎学力の定着を図る必要がある。</div>		<div>総合評価</div> <div><div>A</div> B C D</div>	
13 来年度に向けての改善方策案				
<div>・ユニバーサルデザインとラーニングピラミッドを意識した授業改善：「学ぶ楽しさを感じる授業」を目指す。</div> <div>・中京学院大学との高大連携の実施および改善。</div> <div>・manaba・メタモジ・スタディサプリを活用した授業改善。</div> <div>・時間割作成のICT活用に挑戦（業務改善）。</div> <div>・ティーチャーズデイの導入：定期考査4日目を生徒家庭学習日、採点・成績処理日とする（働き方改革）。</div>				

3	評価する領域・分野	◇研修（資質向上・教育資源活用）		
4	現状の分析	○職員全体で「より良い学校にしていこう。」という機運がある。 ▲教育目標やスクール・ポリシーをより活用できる余地が残されている。		
6	今年度の具体的なかつ明確な重点目標	・実際の教育活動において、スクール・ポリシーを意識する機運を高める。 ・グランドデザインに基づいたPDCAの営みへの意識を高める。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・スクール・ポリシーを、実際の教育活動に反映させたグランドデザインを作成する。 ・年間反省において、グランドデザインへの観点から振り返ってもらうようにする。			・職員全体にグランドデザインの大切さを認識してもらうことができたか。 ・振り返りにおいて、グランドデザインの大切さを認識した上で、前向きに取り組んでもらうことができたか。	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
(1) 本校に対する職員の意識を共有した上で、スクール・ポリシーに基づいたグランドデザインを作成した。 (2) 年間反省において、自分の担当教科である国語の授業における授業アンケートを事例として提示し、グランドデザインからの振り返りを行った。			(1) 教育活動におけるグランドデザインの位置づけと重要さを、明瞭に説明することができたか。 (2) グランドデザインに基づいた振り返りの在り方を明瞭に示し、自身に当てはめてもらうことができたか。	A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○学校での全ての教育活動が、教育目標を頂点として、スクール・ポリシー、グランドデザインとつながっているということを再確認する契機をつくることができた。 ○年間反省において、上記の関係性を念頭に置くことにより、より有機的・総合的な反省につながられ、本校への現状認識を深化させることにつながった。 ▲各分掌・学年・教科に、スクール・ポリシーと教育活動を結びつけたグランドデザインを作成してもらったが、その関係性への理解を浸透しきれず、結果として教育活動が持つ意味を十分に認識しきれていない状態であった。 ▲グランドデザインへの理解が不十分であった結果、グランドデザインをより意識した、PDCAを依頼することが難しくなった。			総合評価 A (B) C D
	13 来年度に向けての改善方策案			
今年度は不十分であった、グランドデザインの重要性を繰り返し伝えていくことによって、職員全体で教育活動をより意識化させたい。原点を確立させることで、全ての教育活動への意義が認識されるようにし、より良い土岐紅陵高校へとつなげていきたい。また、これを円滑に進めることで、本校における研修部の立ち位置を明瞭にしたい。				

3 評価する領域・分野		◇ ICT推進部 (学習支援・ICT活用・組織運営・広報)	
4 現状の分析		<p>○学校評価アンケートの「学校は、ホームページ等を用いて、保護者（地域）へ様々な情報を速やかに伝えている。」という項目に対して、肯定的評価が97%であり、さらに、肯定的評価の中で「よくあてはまる」の割合が昨年度は38%に対して、今年度は50%となった。</p> <p>○「一斉配信メールサービスは有効に活用されている。」という項目に対して、肯定的評価が99%であり、さらに、肯定的評価の中で「よくあてはまる」の割合が昨年度は58%に対して、今年度は69%となった。</p> <p>▲学校評価アンケートの「本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。」において、肯定的評価が95%であるが、肯定的評価の中で「よくあてはまる」の割合が43%と依然低いままである。</p>	
6 今年度の具体的なかつ明確な重点目標		<p>・職員の情報活用能力の向上を図る。</p> <p>・在校生やその保護者はもちろんのこと、入学希望者やその保護者または地域の方々に対して、公式Instagram、ホームページを通して学校の雰囲気やカリキュラムを把握できるようにする。</p>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>・授業における、ICT機器、アプリの活用事例を教務部、研修部と連携し紹介する。</p> <p>・公式Instagram、ホームページを随時更新し、その更新内容についてすぐにメールを活用して周知徹底を行う。</p>		<p>・情報機器や教育ツールを活用する職員が増加するか。</p> <p>・学校評価アンケートにおいて、肯定的評価が90%以上であるか。</p>	
9 取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
<p>(1) 自習の際にスタディサブリを活用したり、長期休業の際に宿題を出したりするなど、アプリの活用に挑戦した。また、考査の採点においては、百問繚乱を活用し、採点時間の短縮に努めた。</p> <p>(2) 学校公式Instagramを開設し、ホームページと合わせて、学校情報の公開に努めた。</p>		<p>・スタディサブリを用いて、考査範囲や宿題の配信を行うことができるか。また、百問繚乱を活用する。</p> <p>→授業者によっては活用する者もいたが、全員が有効に活用できていたとは言えない。しかし、百問繚乱においては大多数の職員が活用し、採点時間の短縮に努めることができた。</p> <p>・学校評価アンケートにおいて、肯定的評価が90%以上であるか。</p> <p>→肯定的評価が97%であり、目標を達成することができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果課題	<p>○公式Instagramをはじめ、半年でフォロワー350人を達成し、ホームページと合わせて情報公開に努めた。また、ホームページの閲覧者数は昨年度比120%、一昨年度比163%を達成した。そのため、多くの在校生、受験生、近隣住民の方々に本校を知ってもらうことができた。</p> <p>・百問繚乱を活用することで、採点時間の短縮に努めることができた。</p> <p>▲全職員でスタディサブリ、Metamoji、Teamsの活用が浸透しておらず、まだまだ改善の余地がある。</p>		総合評価
13 来年度に向けての改善方策案			
<p>・Metamojiやteamsの活用を前提に職員に周知徹底を行う。</p> <p>・業務の効率化が図れるツールがあれば、適宜紹介する。</p>			

3 評価する領域・分野	◇生徒支援部（生徒指導・教育相談）		
4 現状の分析	○昨年度と比較し、学校全体として落ち着きを取り戻すことができた。落ち着いた状態を土台とし、授業・学校行事・部活動等、前向きな挑戦をする生徒が増えた。 ▲遅刻・早退・欠席等、基本的生活習慣の確立に課題を抱える生徒の指導・支援。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 自己の在り方や生き方を主体的に考えることができる人間の育成 (2) 思いやりのある人間の育成 (3) 社会で求められる資質や品格を身に付けた人間の育成 (4) 地域社会に貢献できる人間の育成		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 自己肯定感と自己有用感を育み、自らの価値と可能性に気づかせる。 (2) 出会いと学びを通じて、人の気持ちを考え、発言・行動することができる力をつけさせる。 (3) 基本的生活習慣を確立し、TPOをわきまえた立ち振る舞いができる力をつけさせる。 (4) 集団における自身の役割を理解し、他者と協働し責任をもって物事に取り組む力をつけさせる。	(1) 生徒学校評価の「本校では、一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている。」の項目で、肯定的な評価が80%以上であるか。 (2) 生徒学校評価の「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の項目で、肯定的な評価が80%以上であるか。 (3) 生徒学校評価の「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」の項目で、肯定的な評価が80%以上であるか。 (4) 学校行事・部活動等で他者と協働し物事に取り組む姿を見ることができるか。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1) 職員で生徒指導方針を共有し、全職員体制での生徒指導・支援を実践する。 (2) クラス・学年・全校集会等、あらゆる機会を通じて、他者を思いやり発言・行動することの大切さを気づかせる。 (3) 遅刻指導、定期的な身だしなみ指導、集会等で都度必要な事柄について考えさせる。 (4) 他分掌と連携し、学校行事・部活動の活性化に努める。	(1) 生徒学校評価の「本校では、一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている。」の項目で、肯定的な評価が88%であった。 (2) 生徒学校評価の「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の項目で、肯定的な評価が83%であった。 (3) 生徒学校評価の「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」の項目で、肯定的な評価が89%であった。 (4) 学校行事・部活動等が昨年度以上に、活発になってきた。他者と協働しながら、自身の良さを発揮できる生徒が増えてきた。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D	
12 成果・課題	○昨年度以上に、落ち着いた状態で授業を実践することができた。また、学校行事や部活動についても、より活発になってきた。 ○1年間を通じて、様々な場面で生徒の活躍を見ることができた。また、頑張ることの楽しさを理解し、挑戦する生徒が増えてきた。 ▲生徒の成長を認めながらも、現状に満足することなく、更なる可能性を追求していくこと。 ▲スマートフォンの適切な使用方法について。		総合評価 Ⓐ B C D
13 来年度に向けての改善方策案			
今年度の生徒間トラブルを振り返ると、大きく二つの点が原因であると考えられる。まず一つはコミュニケーションの図り方について。二つ目はスマートフォンの使用方法である。この課題に対して、外部機関との連携も図りながら対応をしたい。そして、より良い方向にコミュニケーションを図る力、スマートフォンを活用する力を獲得させたい。			

3	評価する領域・分野	◇総務部（渉外・防災・保健・環境・図書）		
4	現状の分析	○PTAとの関係性では学校祭でのPTAバザーの復活やビンゴ大会の継続、球技大会等学校行事への参加などへ積極的に参画されており、支援体制が構築されている。 ▲学習環境の整備（清掃活動・安全指導等）や啓発（図書館の活用等）の更なる充実。		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・広範な角度、視点から教育活動、環境整備等の充実を図る。 ・自らの健康と安全を守る力を育成する。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・定期健康診断の実施と事後指導 ・防災教育と安全点検の確実な実施と啓発 →命を守る訓練を年3回実施と年2回の安全点検 ・清掃活動の徹底充実と用具の充実 ・学校・家庭・地域社会との連携 →会報等の発行、学校行事への参画			・学校評価の「総務部」に関係する項目で肯定的な結果が生徒・保護者とも80%以上であるか。	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
(1) 命を守る訓練 (2) 保護者との協働のよる活動 →ハローモーニング挨拶運動（年4日） (3) 日々の清掃活動の充実と節目での大掃除、床磨き等の実施			①アンケートで肯定的な評価が80%以上であったか。 ・防災関連マニュアルについて保護者は概ね達成されているが、生徒（79%）には徹底されていない。	A ㊀ C D A ㊀ C D A ㊀ C D
12	成果・課題	○保護者が感染症対策など安全に配慮した上で、生徒の様子を参観する機会について、概ね理解されている。特に学校祭への参加については、年々積極的な参加が復活してきた。 ▲【図書】図書館だよりを通した広報活動やイベントを企画し図書館利用者増を試みているが増加には至っていない。 ▲【環境整備】清掃が行き届いていないと考えている生徒も多く、65%の評価となっている。		総合評価 A ㊀ C D
13	来年度に向けての改善方策案			
【渉外】保護者が授業や学校行事に参加しやすいよう、情報を早めに伝えるよう計画的に行う。 【図書】図書館利用をはじめ、全職員で読書の意義や有効性をアピールし、SNSのみに頼らない学習・生活習慣の向上に努める。→グラデュエーション・ポリシー（GP） 【環境整備】清掃に対する意識向上を、生徒会・委員会を活用しながら進めていきたい。				

3 評価する領域・分野		◇特別活動部（特別活動・学校行事・生徒会）	
4 現状の分析		昨年度の成果と課題では生徒会執行部の積極的な学校運営参加、各行事の活動報告（HPへの掲載）ができていた。 部活動間の交流（サッカー部の試合に野球部の生徒が出場）、合同トレーニングの実施（サッカー、バスケ、野球、ウエイトリフティング）ができたが、部活動の加入率が低い	
6 今年度の具体的なかつ明確な重点目標		・生徒会執行部がより主体的に学校運営に参加できる環境づくり ・部活動時間の確保と部活動登録数の増加	
7 目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・各学校行事における生徒会執行部との会議 ・部活動啓発活動や部長会議の実施		・文化祭などの満足度80%以上であるか。 ・活動実績の検証と部活動満足度の70%達成	
9 取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
【学校行事】 ・紅陵祭(文化祭)、球技大会(春秋2回実施) ・東濃特別支援学校との共同学習 ・ボランティア活動……MSリーダーズ活動 (地域清掃・ハローモーニング・あいさつデー・土岐市駅前啓発活動・総文祭補助役員) 【部活動】 ・ウエイトリフティング部……東海大会出場 ・弓道部・卓球部……県大会出場 ・水 泳……東海大会出場 ・早朝練習を実施する部活動が出てきたことや、他校との合同合宿や県外遠征など活動が盛んになってきた。		①アンケートで学校行事に対して肯定的な評価が70%あったか ②アンケートで部活動に対して肯定的な評価が70%以上あったか	A B C D A B C D
12 成果課題	○生徒会執行部の主体的な学校運営参加 ・主体的に文化祭の生徒会企画の発案や取り組むことができた。 ・球技大会のチーム編成の変更も生徒会で考えることができた。 ○各行事の活動報告（HPへの掲載）※部活動も同様 ▲余裕をもって計画的にできないことがあった。 ・○早朝練習を実施する部活動が出てきたことや、他校との合同合宿や県外遠征など活動が盛んになってきた。 ○放課後の活動時間が増加し活気が出てきた ○合同トレーニングの実施（サッカー、バスケ、野球、ウエイトリフティング） ▲退部者や休部者の増加		総 合 評 価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案			
13 来年度に向けての改善方策案 ・生徒会執行部が引き続き主体性をもって、計画的に学校運営に参加できる環境づくり ・部活動加入率の向上と退部者、休部者の減少に取り組む ・リーダー研修を実施して、部活動の意義やリーダーとしての資質を研ぐ			

3 評価する領域・分野	◇進路支援部（進路指導・キャリア教育推進）		
4 現状の分析	○進学・就職のどちらの進路にも全教員で対応できる体制が整っている。 ▲生徒のもつ可能性をさらに伸ばす取り組みが十分ではない。		
6 今年度の具体的かつ 明確な重点目標	・生徒の可能性を伸ばす取り組みの充実を低学年から図る。 ・各学年の生徒の状況に合わせつつ、進路について考える機会を増やす。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・生徒が自分の進路を考えることを目的とした、放課後実施の希望制の講座として「じぶん開発講座」を開催 ・求人票をデジタルで閲覧しやすくする ・オープンキャンパスや業者主催の説明会への参加を積極的に促す ・進路支援部長が1年生の四年制大学進学希望者などと面談を実施		・今年度の「生徒を対象とするアンケート」において、「進路指導」に関係する2項目で肯定的な結果の割合。 ・各講座の生徒の参加者数や感想 ・進路状況	
9 取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評 価
・国公立大学説明会や教職説明会、スタサブを活用した学習の取組方法の説明会などを開催 ・進路支援部長面談を2回実施 ・2年生で夏季休業中に課題の1つとして各上級学校のオープンキャンパスに参加することとした。また、1年生は校外実施の業者主催の説明会の参加を促した		①今年度の「生徒を対象とするアンケート」において、「進路指導」に関係する2項目で肯定的な結果の割合が前年度よりも増加。 ※「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」が81.0%→83.8%に、「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」が82.8%→85.8%に ②各講座に意欲ある生徒が多く参加した。参加者は進んで質問するなど積極的に参加できた。 ③総合型選抜で多くの大学合格者が出た。就職希望者も全員内定を得ている。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
12 成果・課題	○生徒が将来の進路に対して前向きに取り組む姿勢がさまざまな場で見られるようになった。 また、自分の可能性を信じて、能力を身に付けようとする生徒が増加した。 ▲志望理由をはじめとする自身の考えなどを的確に表現する能力が不十分である生徒が少なくない。 ▲多様な進路への対応をより充実させていく必要がある。（公務員志望者など）		総 合 評 価 A Ⓑ C D
13 来年度に向けての改善方策案			
・生徒の可能性を伸ばす進路行事の一層充実させる。 ・志望理由をはじめとする自身の考えなどを的確に表現する機会を適切に提供する。 ・公務員志望者に対して、各教科と連携しつつ、スタサブなどによる学力の向上や面接指導を充実させる。			

3	評価する領域・分野	◇活性化推進部（地域連携・総合学科教育・広報活動）		
4	現状の分析	○年度当初に「土岐紅陵高校の産社・総探方針」を示し、その具体的方策として「R6～R8のロードマップ」を周知することができた。『総合学科とは？』という本質的な問いに対し、職員全体で土岐紅陵型の総合学科の展開について熟考し、分掌間で連携しながら進めることができた。 ▲2年次生の総探の内容がスケジュール的に過密になってしまったので次年度調整をする。		
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・土岐紅陵高校産社・総探ロードマップの実行 ・3年次における探究学習の在り方・持ち方についての開発		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・産総会（水4）を実施。ロードマップから落とし込んだ産総の指導案作成と見通しを持った学習計画の立案。 ・“総合型選抜”も視野に入れた探究学習の計画。			・R6生徒対象アンケート項目17、31で肯定的な評価があるか	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
(1) 産総会については、各学年の場所の調整や、内容の共有をし、活性化部会や学年会との連携が取れる仕組みづくりができた。 (2) 彩プロジェクト（新規）、窯元まつり（2年目）アナウンス講座（新規）等 産社総探と接続させ、地域連携や外部人材の活用を進めることができた。			アンケートにおいて「あてはまる」の数値 17. 産社総探の内容は自分にとって有意義であったか。→79% 31. 系列や科目選択に関して意欲的に学んでいるかを問う項目→90%	A B C D A B C D
12 成果・課題	○R5に引き続き、産社総探の内容を精査し実施の枠組みを開発できた。 ○2年次生～3年次生にかけて実施する、学年統一の探究学習について職員研修を実施し、指導力の向上を図るとともに、実施の枠組みを概ね開発できた。 ○R5に引き続き、広報活動にも力を入れることができた。11月現在の中3生の本校への進学希望者は定員90名を上回っている。 ▲産社総探の評価の開発については未着手である。 ▲2年次生の総探の内容がスケジュール的に過密になってしまったので次年度調整をする。			総合評価 A B C D
	13 来年度に向けての改善方策案			
産社総探の年間指導計画をブラッシュアップさせ、指導案や準備計画について、全体で共有できるものを作成する。 R7は窯元まつりの完成年度（1年次：窯元巡り2年次：あそびのひろば3年次：窯元インターン）であるから、今年度中に美濃文山窯伊藤公一さん（学校運営協議会委員）と具体的な方策について構想を練る。				

3 評価する領域・分野 ◇ 1 年学年会 (学年運営・学習指導・生徒指導・進路指導)		
4 現状の分析	<p>○「R 6 年度 土岐紅陵高等学校 生徒を対象とするアンケート」の「2 本校に入学できてよかったと思っている」の設問に9割以上の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が学校行事や進路実現、よい仲間づくり等に向け前向きに学校生活を送ろうとしている。</p> <p>▲メタ認知能力に乏しく、言葉の額面通りに受け取ってしまう生徒が多いため、生徒間や教師との間に思いの行き違いが生まれやすい。頭ごなしに注意するのではなく、ひとつひとつ相手の立場に立たせ、説明していく必要がある。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活における基本的な生活習慣と学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・クラスの一員としての自覚を持たせ、土岐紅陵高校への帰属意識を高め、自己理解と自己実現のために主体的に学校生活に取り組む生徒の育成を図る。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<p>(1) 教務部、進路支援部、生徒支援部等、各分掌との密な連携。学年団内部での情報共有を効率的かつ網羅機に素早く行う。保護者及び他学年との共通理解。</p> <p>(2) 学校行事等を通して、学校やクラスへの帰属意識を高めるとともに、自主性・協調性・責任感・連帯感を育成する。</p> <p>(3) 生徒に対する具体的な説明と対話。</p>		<p>(1) 内面的な多様性を理解しあい、互いの価値観を理解しあう言動がとれる。「身だしなみ確認」において、継続指導に該当する生徒が減少する。</p> <p>(2) 月ごとの欠席数等の変化、および年度末の自己評価や反省、担当職員による評価をもとに、達成状況を判断する。</p> <p>(3) 自己理解及び自己実現に向けた意識の向上と学習への取り組み状況。</p>
9 取組状況・実践内容等		10 評価視点
<p>①担任との面談やHR活動の時間・職場体験学習等で、自己理解と自律・自立の大切さを考えさせ、自身を振り返らせることで、意識づけさせる。また、身だしなみ確認とその事後指導を行う。</p> <p>②教科担任や教務部・生徒支援部と連携をとり、授業の大切さを認識させる。</p> <p>③紅陵祭や球技大会等を通して、クラス等への帰属意識を高めるとともに、自主性・協調性・責任感・連帯感を育成する。</p>		<p>①自発的に身なりを整えるなど、身だしなみへの意識が高まっているか。職場体験学習等のアンケート結果や面談の内容に自己を理解しようと努める姿勢がみられるか。</p> <p>②落ち着いた雰囲気の中で授業ができているか。</p> <p>③行事毎のルールの中で仲間と協働し、楽しもうと工夫する姿がみられるか。</p>
11 評価		12 成果・課題
<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>		<p>○高校生活に慣れ、学校生活全般において生き生きとした態度で取り組むことができている。</p> <p>○正副担任、教育相談、部顧問、スクールカウンセラーが連携し、生徒や保護者の悩みや困りごとに細やかに対応することで、安定した学校生活につなげる取り組みができている。</p> <p>○職場体験学習を通して、言葉遣いやマナー、モラル、ルールの大切さについて考えさせることができた。</p> <p>▲自身の発言や行動が、他人にどのような影響を及ぼす可能性があるか等、客観的に自己評価し、行動することの大切さを理解させる。</p>
13 来年度に向けての改善方策案		
<p>・各系列長や進路支援部、教科主任と学年の情報共有を行い、土岐紅陵高校、学年、系列等、様々な単位の集団に帰属していることを自覚させながら、進路に関する具体的な自己分析をさせ、個性に合わせた進路の方向性を決めさせたい。また、具体的な目標を意識した上で、好ましい身だしなみを意識させるとともに、継続的な学習習慣を身に付けることの大切さを理解させたい。</p> <p>・修学旅行や学校行事を通して、引き立てあい信頼しあえるような人間関係を築かせたい。</p>		

3	評価する領域・分野	◇ 2 年 学 年 会 (学年運営・学習指導・生徒指導・進路指導)		
4	現状の分析	○生徒を対象とするアンケートで「本校に入学できてよかったと思っている」という項目に対して9割以上が肯定的にとらえており、多くの生徒は前向きに学校生活を送ろうとしている。 ▲身だしなみが整っていない生徒やスマートフォンの使用マナーが良くない生徒が少なからずいる。		
6	今年度の具体的なかつ明確な重点目標	・高校生活における望ましい生活習慣と学習習慣を身に付けさせる。 ・2年次生の一員としての自覚を持たせ、土岐紅陵高校への帰属意識を高め、自己実現のために主体的に学校生活へ取り組む生徒の育成を図る。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
		(1) 遅刻・早退・欠席をさせない。また、高校生らしい身だしなみについて考えさせ、良識あるマナーや言葉遣い、挨拶ができるよう指導する。 (2) 基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、授業規律の徹底を図る。 (3) 日々の活動や学校行事等を通して、学校やクラスへの帰属意識を高めるとともに、自主性・協調性・責任感・連帯感を育成する。	(1) 学期または月ごとの欠席数等の変化、定期的に行われる「みだしなみ確認」における継続指導生徒の数や実態の把握、および担当職員による評価をもとに、達成状況を判断する。 (2) 定期考査等の結果、および担当職員による評価をもとに、達成状況を判断する。 (3) 行事ごとに実施されるアンケート等の結果、および担当職員による評価をもとに、達成状況を判断する。	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評 価
		(1) 窯元祭りや修学旅行など学校外で活動する際に良識あるマナーや言葉遣い、挨拶等を意識させる。 (2) 教科担任や教務部・生徒支援部と連携をとり、授業の大切さを認識させる。 (3) 主に窯元祭りや修学旅行・紅陵祭等を通して、自主性・協調性・責任感・連帯感を育成する。	(1) 各行事のアンケート結果の分析や面談を通して、生徒の状態を把握する。 (2) 落ち着いた雰囲気での授業ができているかを観察したり、定期考査等の結果により基礎学力の定着度合いを把握したりする。 (3) 行事ごとのアンケート結果等により、達成感と成就感を把握する。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
12	成果・課題	○4日間の修学旅行中誰一人として集合時刻に遅れることなく、すべての行程を順調にこなすことができた。また、窯元祭り「あそびのひろば」では、適切な態度で運営できた。 ○前期期末や後期中間時点での欠点者数が、少しではあるが1年次よりも減少しており、学習に対する取組姿勢が少しずつ良くなっている。 ▲単純比較はできないが、後期中間時点での欠席・遅刻・早退数が1年次より増えていたり、身だしなみやスマートフォンの使い方や注意される生徒が増えたりしており、「中だるみ」と言ってよい状況が見られた。 ▲科目選択やオープンキャンパスなどと各自の進路を関連付けて深く考えたり行動したりする生徒が多くはなく、個々の生徒の進路意識を高める工夫が必要であった。		総 合 評 価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案			
・生徒個々の進路目標を明確にさせ、進路実現に向けた具体的な取り組みを計画・実行させる。 ・最高学年であることを常に意識させ、部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。 ・総合的な探究の時間の取組を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。				

3	評価する領域・分野	◇ 3 年 学 年 会 (学年運営・学習指導・生徒指導・進路指導)		
4	現状の分析	○進路実現に向けて積極的に取り組み、今やらなければならないことを自覚し始めた ▲成功体験の少なさからか、積極的に自信を持って取り組むことが少ない		
6	今年度の具体的かつ 明確な重点目標	・生徒が個々の進路実現を目指す中で、社会人として必要な資質を理解し身に付けさせる ・大人としての行動や自己管理ができ、自己有用性を認識させる		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携 ・保護者及び他学年との共通理解 ・生徒に対する具体的な説明と対話			・定期的に行われる「身だしなみ確認」において継続指導及び要観察に該当する生徒の自主的な対応 ・集団の中の一員としての発言や行動がとれる ・進路実現に向けた意識の向上と、積極的な学習への取り組み	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評 価
(1) 基本的な生活習慣の確立を呼び掛けるとともに、自主的な改善を促す(見守り指導) (2) 各自の進路に合わせ就職試験内容も考慮しつつ、定期考査を含め計画的に学習が進められるように指導する (3) 学習、生活、進路の主役が自分であることを理解させ、自主的に取組めるように導いた			(1) 2年時と比べ見違えるほど成長し、身だしなみを正すことができた。 (2) 12月までにほぼ全員の進路が確定した。また、資格取得に向けて意欲的に取り組む姿勢が見られた。 (3) 自らが考え行動し、他と協力しながら行動することができた。	A (B) C D (A) B C D (A) B C D
12 成 果 ・ 課 題	○長いコロナ期間中に、欠席に対する感覚が平常でなくなってしまう、基本的な生活習慣も乱れてしまった。時間はかかったが2年前とは見違えるほど成長し、自ら考え行動できるようになった。 ○学習(資格取得含む)、学校生活、部活動など意欲的に取り組むようになった。特に部活動においては積極的に参加し、確実に成果を上げてきた。 ▲一部に、欠席が多くなったり、遅刻や早退を繰り返したりする生徒がみられ、保護者召喚で指導への協力をお願いした。			総 合 評 価 (A) B C D
13	来年度に向けての改善方策案			
・生徒自身が自ら考え行動できる機会を多く準備する。学習や進路は言うまでもなく、学校行事や部活動を通じて自己肯定感、有用感を体感させることこそが本校にとって一番大切な教育活動であると考えている。				

土岐紅陵高校一年のあゆみ

令和6年4月～令和7年3月

4月 ※東鉄バス校内乗り入れ開始

- 1日(月) 辞令交付式
- 8日(月) 新任式、始業式、入学式
- 9日(火) 対面式、スタイリングセミナー
- 10日(水) 新入生ガイダンス
- 11日(木) P T A 常任委員会
- 15日(月) 一斉部会
- 16日(火) 一斉委員会
- 17日(水) 演劇WS (4/18)
- 18日(木) リカルト適正検査 (2年)
- 19日(金) 帰宅確認
- 22日(月) 二者懇談 (~4/26)
- 23日(火) 情報モラル講話 (1年)
- 24日(水) 彩プロジェクト①

5月

- 1日(火) 心電図・X線検査 (1年)
- 2日(水) P T A 総会
彩プロジェクト②
- 7日(火) スタサプ到達度テスト
- 8日(水) 生徒総会
ハローモーニング
MSリーダーズ (挨拶運動)
- 9日(木) 合同企業説明会、進学ガイダンス (3年)
ハローモーニング
MSリーダーズ (挨拶運動)
- 10日(金) 社会見学
- 14日(火) 道徳教育講話
- 16日(水) 彩プロジェクト③
- 17日(金) 球技大会
- 20日(月) 系列別授業参観 (1年)
- 21日(火) クレペリン検査
いじめ防止チェックシート
- 22日(水) 交通安全講習会 (1年)
- 23日(木) 命を守る訓練
彩プロジェクト④
- 28日(火) 演劇WS (5/29)
学校運営協議会
- 30日(木) テストバッテリー (1年)
ハイパーQU (2年)
- 31日(金) 県高P連定期総会
1年内科検診

バス乗り入れ



入学式



P T A 総会



道徳教育講話



演劇WS



6月

- 4日(火) 前期中間考査(～6/7)
- 9日(日) 土岐市青少年の主張大会
- 10日(月) ウェイトリフティング部壮行会
- 11日(火) 教育長訪問
- 13日(水) SOSの出し方教育
彩プロジェクト⑤
- 15日(日) 西陵地区青少年育成の主張大会
- 18日(火) 演劇WS(6/19)
- 19日(水) 教科書選定委員会
- 20日(木) 職業適性検査(2年)
歯科検診
- 21日(金) 卒業生と語る会(3年)
東海地区高P連東海第会(三重)
- 24日(月) 科目選択第1回仮登録
- 25日(火) 土岐紅陵高校PR週間
- 27日(水) 進路別パネルディスカッション(2年)
彩プロジェクト⑥
- 28日(木) 内科検診(2年)

7月

- 1日(月) 求人票受付開始
- 2日(火) MSリーダーズ土岐市あいさつデー
- 4日(木) 主権者教育(3年)
- 5日(金) 壮行会
- 8日(月) ALTカイル先生離任式
- 9日(火) 学校衛生委員会
第1回いじめ防止対策推進委員会
- 10日(水) 薬物乱用防止講話(1年)
- 11日(木) 三者懇談(7/18)
彩プロジェクト⑦
- 13日(土) 野球応援(中津川公園野球場)
- 16日(火) PTA本部役員会
- 19日(金) 夏季休業前終業の会
- 23日(火) 夏の体験入学(7/24)
- 26日(金) 大韓民国交流事業[レセプション]
- 29日(月) 大韓民国交流事業
夏休みマンガ講座(7/30)

8月

- 1日(木) 全国総文伝統芸能部門練習会場(～8/4)
- 8日(金) ハローワーク就職者がイタンス(3年)
- 9日(水) 学校閉庁(～8/14)
- 21日(水) 教育課程講習会(オンライン)
- 22日(木) 全国高P連茨城大会(8/23)
- 26日(月) 始業の会・課題テスト
- 27日(火) 3年就職者面接指導(～8/30)
1・2年二者面談(～8/31)

SOSの出し方教育



西陵地区青少年育成の主張大会



壮行会



野球応援



大韓民国交流事業



9月

- 4日(水) MSリーダーズ(清掃活動)
- 5日(木) 修学旅行事前学習
- 6日(金) 命を守る訓練
- 12日(木) 生徒会役員選書
- 13日(金) 学校運営協議会
- 16日(月) 就職試験開始
- 17日(火) 前期期末考査(～9/20)
- 24日(火) 後期始業式、生徒会役員任命式
- 26日(水) 高校教育課訪問
- 27日(金) 救命救急講習会

10月

- 3日(木) ハローモーニング(10/4)
- 8日(火) 修学旅行(～10/11)
- 9日(水) 職場体験学習(～10/11)
秋の高校見学
- 11日(金) 自動車学校説明会
- 15日(火) 職場体験学習まとめ(1年)
- 17日(木) 金融教育(3年)
- 18日(金) 学校預り金契約審査会
- 21日(月) 科目選択第2回仮登録結果報告
- 23日(水) 紅陵祭準備期間(～10/29)
- 26日(土) 窯元まつり(10/27)
- 30日(水) 紅陵祭前日準備
- 31日(木) 紅陵祭1日目

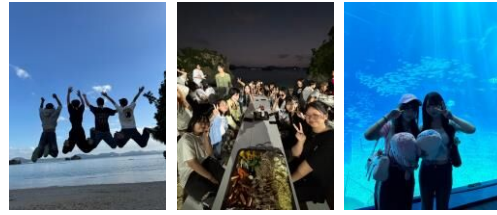
11月

- 1日(金) 紅陵祭2日目
- 8日(金) 環境整備の日
- 10日(日) 多治見地区高等学校フェア
- 11日(月) 中京学院大学高大連携協定調印式
- 12日(火) 球技大会
- 13日(水) 代休
- 14日(木) ひびきあいの日
- 21日(木) 企業見学(2年)
- 22日(金) 命を守る訓練
- 25日(月) 科目選択本登録
- 26日(火) 後期中間考査(～11/29)

12月

- 5日(木) 学校見学(2年)
進路ガイダンス(1年)
テーブルマナー(3年)
- 6日(金) 年金セミナー(3年)
- 10日(火) 二者面談(～12/18)
- 13日(金) 学校預り金契約審査会
補助教材等選定委員会
- 19日(木) 大掃除 冬季休業前終業の会
- 20日(金) 冬季休業(～1/7)
- 26日(木) 達人カップ(2年ビ基)

修学旅行



職場体験学習



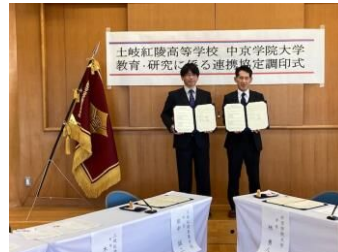
窯元まつり



紅陵祭



中京学院大学高大連携協定調印式



テーブルマナー(3年)



達人カップ(2年ビ基)



1月

8日(火)	始業 スタサポ到達度テスト(1,2年)
9日(水)	スタイリングセミナー(3年)
14日(火)	中京学院大学高大連携協議会
16日(木)	進路ガイダンス(2年) 就職ガイダンス(1年)
17日(金)	常任委員会・PTA本部役員会 紅陵エキシビジョン(～1/23)
22日(水)	学校保健委員会 学校安全委員会 第2回いじめ防止推進委員会 東濃特別支援学校交流
23日(木)	課題解決学習発表会リハーサル
24日(金)	課題解決学習発表会 学校運営協議会
29日(水)	学年末考査(3年～1/31)

2月

6日(木)	1年職業別説明会
13日(木)	ハローワーク就職ガイダンス(2年)
14日(金)	生徒会役員選挙
18日(火)	学年末考査(1,2年～2/21)
28日(金)	同窓会入会式・表彰式 3年生を送る会

3月

1日(土)	第27回卒業証書授与式
24日(月)	終業式・離任式
25日(火)	春季休業(～4/7)

課題解決学習発表会



3年生を送る会



表彰式



同窓会入会式



卒業証書授与式



スタイリングセミナー(3年)



紅陵エキシビジョン



球技大会

今年度も、春と秋、計２回の球技大会を行うことができました。キャプテンを中心に力を合わせて取り組み、熱い戦いが繰り広げられました。球技大会を通して仲間と協力する姿や一生懸命取り組む姿がたくさん見受けられ、とてもよい大会となりました。また、決勝戦の全校観戦や、教員チームと優勝チームのエキシビジョンマッチなど、全校生徒と教員が一体となって球技大会を行うことができました

来年度は今年度以上に活気のある球技大会を目指していきたいです。

☆春季大会（５月１７日）

・男子バレーボール	
優 勝	３年２組Ａ
準優勝	３年１組Ａ
３ 位	２年２組Ａ
・女子バレーボール	
優 勝	３年２組Ａ
準優勝	３年１組Ａ
３ 位	３年１組Ｂ
・総合順位	
優 勝	３年１組
	３年２組
３ 位	２年３組

☆秋季大会（１１月１２日）

・男子バレーボール	
優 勝	３Ａ
準優勝	３Ｂ
３ 位	２Ａ
・女子バレーボール	
優 勝	２Ｄ
準優勝	３Ａ
３ 位	３Ｆ
※秋季大会は総合順位はなし	

令和6年度 紅陵祭を終えて

今年度の紅陵祭のテーマは『I♥紅陵祭』でした。
また、テーマソングには Mrs. GREEN APPLE の『ライラック』を使用しました。

今年度の紅陵祭は展示や体験型だけでなく、演劇を行うクラスもありバラエティーに富んだ内容でした。有志発表の参加団体数が5団体とたくさんの応募がありました。会場を巻き込む出演者の工夫により、体育館が一体となりライブハウスのような盛り上がりを見せました。

また、本年度も PTA の方々にもご協力をいただきました。紅陵祭1日目はバザーを行いました。全校生徒に手作りの焼きそばと揚げパンを配布していただき、生徒もととてもおいしそうに食べている姿が印象的でした。紅陵祭2日目は「ビンゴ大会」を行いました。上位者には飲食店で使える商品券が当たるビンゴで生徒は数字が発表されるたびに一喜一憂し、心をワクワクさせていました。

クラス発表では、演劇、展示体験など見どころいっぱい、観覧される人が楽しみながら参加することができました。演劇では全校生徒の前で堂々と演じる姿や舞台で使う大道具、小道具までもしっかりと作りこまれており、迫力のあるステージでした。展示体験ではどのクラスも教室や校舎をめいっばい使用して工夫をこらしており、観覧者が楽しめる内容でした。紅陵祭を通して、クラスで意見が対立したり、うまくいかないこともあったと思いますが、クラスの仲間と協力しながら、困難を乗り越えて完成できたことは自信になったのではないのでしょうか。今年度も素晴らしい紅陵祭を行うことができたので、この流れを来年度も受け継いで、演劇、展示体験など様々な内容で文化祭を盛り上げていきたいです。

クラス	タイトル	内容	発表場所
1年1組	紅陵ラウンドワン	ボウリングやキッキングスナイパー、ハンドメイドなど体験型ブースを作ります	1－1教室 4A教室
1年2組	Kawaii 写真スポット	校内の写真スポットを回り、答えを探し出そう！	1－2教室 校内
1年3組	恐ろ学校	迷路のような夜の学校を探検するお化け屋敷です	1－3教室
2年1組	ハロウィンだぜbro	みんなでハロウィン楽しもう！ トリック・ア・トリート！！	2－1教室
2年2組	「IT」 紅陵生が消える町に「それ」は現れる	「IT」をモチーフにしたお化け屋敷です。	2－2教室
2年3組	アラジェット	アラジンをもてらしたジェットコースターを楽しもう！！	2－3教室
3年1組	ハワイアン&ジブリ	ジブリキャラクターとの撮影やハワイアン風の映えスポットを作ります	3－1教室 3－2教室
3年2組	シンデレラ	クラス全員で協力して、シンデレラを演じます。	ステージ
3年3組	千と千尋の神隠し	千と千尋の神隠しを紅陵風にアレンジしてお届けします	ステージ

団体	タイトル	内容	会場
生徒会執行部員	オープニング企画	動画発表、〇×クイズを行います	ステージ
PTA母親委員会	バザー	全校生徒へ 焼きそば&あげパンを配付します	中庭、調理室※雨天時学科棟1F
	ビンゴ大会	今年はビンゴ大会で盛り上がりましょう	ステージ
手話	手話歌	手話を手話歌で発表します	ステージ
点字	歌詞の点訳展示	選択者それぞれの作製した点訳を展示します	本館廊下
書道	書道展	書道選択者の作品を展示します	書道室
漫画研究部	漫画販売	部員の描いた漫画販売、原画展示、実演を行います	30教室 本館3F
美術部	ヘンゼルとグレーテル	グリム童話 ヘンゼルとグレーテルをテーマにしたインスタレーションを展示します	学科棟2F陶板壁、渡り廊下
吹奏楽部	きらきらぶらすばんど	練習してきた楽曲を演奏します	ステージ
演劇部	夜明けと流星	夜明けと流星を紅陵祭用にして演じます	ステージ
図書委員会	輝け！！ ～きらめく世界～	図書委員のおすすめの本を切り絵にし、窓を彩ります	本館2F 図書館前廊下
保健委員会	食べすぎご注意！！	カップラーメンの塩分を調査し、その塩分量や塩分摂取量について展示を行います	保健室前

令和6年度卒業証書授与式

【式次第】

開式の辞

国歌斉唱

卒業証書授与

各種賞状授与

- ・総合学科高等学校卒業生成績優秀者表彰

後藤 麻子

- ・産業教育振興中央会表彰

大野 聖真

- ・岐阜県産業教育振興会表彰

鈴木 実優

- ・全商協会卒業生成績優秀者表彰

長瀬 太吾

- ・岐阜県産業教育振興会商業教育部優良卒業生表彰

杉山 愛祈

- ・岐阜県商業教育研究会優良卒業生表彰

城塚 咲穂

- ・3か年皆勤（7名）

代表 長江 美月

小栗 汐織	長江 美月	鈴木 実優
秋田 颯星	大野 聖真	永井 瑞季
宮地 健太		

学校長式辞

来賓祝辞

在校生送辞

林 遼平

卒業生答辞

緒方 愛莉

手話通訳		
福井 花鈴	加藤 湊太	神尾 悠斗
玉置 有咲	松枝 月渚	秋田 颯星
大塚 蒼彩	後藤 麻子	永野 咲空

校歌斉唱

閉式の辞



【送辞】

ことさら厳しかった冬の寒さも和らぎ、暖かい春の訪れを感じさせるような季節となりました。

今日、このよき日に、土岐紅陵高等学校を卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、初めて土岐紅陵高等学校の門をくぐ

った日から今日までの三年間をどのように感じていらっしやるでしょうか。

私たちが、先輩方と出会ったのは、今から2年前です。最初の頃は、不安と緊張から先輩方との交流があまりできませんでした。ですが、1日1日と生活していく中で、先輩方と仲良くなることができました。

特に私が思い出に残っているのは、文化祭と球技大会、そして課題解決学習発表会です。文化祭では先輩方の出し物を見て、心から「すごいなあ」と感動しました。どの発表にも豊かな発想力があふれていました。

球技大会では、互いに声を掛け合う先輩方のチームワークに圧倒されました。さらに優勝したチームと先生方が戦うエキシビジョンマッチで見られたチームプレーには、先輩方の3年間の絆を感じました。

個人的にはこれらの行事を通して、生徒会執行部としての心構えを教えていただきました。準備がうまく進まないときには、スムーズに行う方法を教えてもらいました。生徒会活動を通して、先輩方の懐の深さを感じました。先輩方の支えがあったおかげで、無事今年度後期の行事を運営することができました。本当に有り難うございました。

そして、課題解決学習発表会です。先輩方のどの発表グループもグラフや表などが活用され、とても分かりやすく感じました。説明する姿勢や話し方もしっかりしていて、大人の雰囲気を感じました。司会者の方も自分の感想を織り交ぜるなど、全てにおいて私たちに大きな見本を見せてくださいました。

次は、私たち2年生が最高学年となります。先輩方の行動力・団結力を見て来て、私たちも良い最高学年にならないといけないと感じています。先輩方が示してくれた姿を模範として行動し、今まで以上にこの学校を明るく元気な学校にします。私たちに範を示してくださり、本当にありがとうございました。また、一緒に楽しんでいただき、ありがとうございました。先輩たちと過ごした日々は私たち在校生にとっては宝物です。一生忘れません。

卒業生の皆さんはこれから、それぞれが選んだ新しいステージへと旅立たれます。どの道に進んでも、ここ土岐紅陵高校で学んだこと、経験したことを生かして、より良い人生に向かって進んでいってください。卒業生の皆さんそれぞれのご活躍を心よりお祈りし、送辞といたします。

令和7年3月1日
在校生代表 林 遼平

【答辞】

暖かな春風がそっと頬を撫で、桜の枝のつぼみが静かに膨らみ、間もなくその花が香り高く咲き誇ろうとする佳き日に、土岐紅陵高等学校第26期生、84名は、卒業という新たな節目を迎えました。

振り返ると、私たちは「変化」と共に歩んできました。入学当初、マスク越しに友人の顔を見ながら学校生活が始まりました。あの小さな布が、無意識に壁を作り、人間関係が思うように築けない日々が続きました。その後、感染

症が落ち着き、マスクを外した瞬間、心の壁が取り払われ、本当の友情が芽生えた瞬間を鮮明に覚えています。

高校生活は決して順風満帆ではありませんでした。友人関係において、生涯の友を得たと感じる瞬間もあれば、浅はかな行動、軽率な言葉で誤解を招き、すれ違うこともありました。それでも、再び手を取り合い、共に歩むことができたことは私たちの誇りです。一方で、どんなに願っても取り戻せない別れも経験し、その中で何度も涙を流し、言葉にできない思いを抱えたこともありました。そのような苦難を乗り越え、私たちは強く成長しました。

修学旅行では「ルールの範囲内で思いきり楽しもう」を合言葉に、初めて飛行機に乗り、国内唯一の地上戦の地、沖縄を訪れました。燦燦と輝く太陽、澄み渡る蒼昊、瑠璃色の海に迎えられ、その清らかな海に足を踏み入れた時の感動は今でも忘れません。防空壕を訪れ、戦争の凄惨さと平和の尊さを痛感しました。画面越しでは決して伝わらない現実に触れることで、恒久的な平和を心から希求しました。タクシー研修では、三線が奏でる優雅な音色に耳を傾けながら、沖縄の悠久の歴史や古き良き伝統に触れ、その景観に心を奪われました。マリン体験では広大な海に包まれ、圧倒的な雄大さに心打たれました。月明りの下で行われたバーベキューでは、火を囲みながら笑い合い、協力し合う中で、普段は気づけなかった仲間の新たな魅力を発見しました。また、修学旅行を通じて、私たちは単なる観光ではなく、歴史、文化、自然、そして多くの人々の思いに触れることができました。この修学旅行で初めて話した同級生が、今では苦楽を共にする親友となりました。その意味でも、この修学旅行は決して忘れることのできない、大切な思い出となっています。

田の秋穂が風に揺れ、楓の紅葉が山々を彩る季節に行われた紅陵祭、私たちは揃いの衣装を身にまとい、コロナ禍で途絶えていた伝統を後輩たちに引き継ぐと奮闘しました。これも変化の一つと考えます。劇の準備は決して順調ではありませんでした。時には勢い余って口論することもありました。それでも、博く知恵を出しあいながら、最終的には一つの劇を完成させました。演じ終えた瞬間の喜びと感動は今でも私たちの心に刻まれています。私たちが作り上げた紅陵祭が成功したかどうかは、来年度以降にしか分かりませんが、私たちが蒔いた種がいつか花開き、後輩たちへと受け継がれていくことを願っています。

紅陵での日常には、言葉では表しきれない多くの思い出が詰まっています。自分の手で織りなした作品が評価されず、無力感に打ちひしがれることもありました。それでも、私たちは自分で選んだ進路を信じ、未知の荒野に足を踏み入れ、切り開く決意を胸にひめ、前進し続けました。紅陵での学びは単なる知識の積み重ねではなく、智恵の泉を豊かにし、自分らしさを見つけることに繋がりました。そして、私たちの考えを深め、価値観を変えることで、問題解決の端緒を見いだすための灯火となりました。

そのような変化する毎日の中で、私たちの心を温めてくれたのは、保護者の皆様が作ってくださったお弁当です。一人で食べることも、決して悪いものではありませんが、

仲間と共に食べることで、昼のひとときがより特別なものになりました。おかずを交換したり、冗談を言い合ったり、鈴の音のような笑い声が響くそのひととき。その時間だけは心からリラックスできました。

私たちがこの3年間で得た経験は、たった2分間で撮らないといけない写真や、15秒の動画で収められるものではありません。それは、日々の授業や部活動、行事、何気ない日常の中に溶け込んでいるからです。それぞれの瞬間が私たちにとってかけがえのないものであり、それを共有し、感じ合うことができたのは、同級生の皆さんのおかげです。

これからの私たちの道はそれぞれ異なりますが、選ばなかった道の先にいるもう一人の自分に対して、恥じることなく、胸を張れるような人生を歩んでいきたいです。

18年間、支え続けてくださった保護者の皆様、私たちの日常に彩りを加えてくれたのは、友人だけではありません。お弁当箱を出すことを忘れたり、学校に置き忘れたりしても、嫌な顔ひとつせず、私たちの好きなおかずを入れ、温かいご飯を食べさせてくれました。迎えを頼んだ際に友人との会話が弾み、車内で何度も待たせてしまっても、笑顔で迎えてくれた優しさ。アルバイトや遊びの送迎、そしてご飯を作って待っていてくれたにもかかわらず、友達との食事を優先して自宅でご飯を食べなかったこともありました。それでも変わらず接してくれた愛情。私たちの18年間は、保護者の皆様の愛情と心遣いに支えられ、安心して過ごすことができました。まだまだ私たちの気づかないところでも、たくさんの愛情と心遣いがあったことでしょう。これからも迷惑をおかけするかもしれませんが、どうかあと少しだけ見守っていただけると幸いです。本当に18年間、ありがとうございました。

私たちがこの土岐紅陵高校で紡いだ物語は、誰にも批判されることなく、否定されることもありません。私たちが歩んだこの時は、将に「校了」なのです。遠くない未来、皆が変化を受ける側から変化を起こす側となり、大きく飛翔し、自分の夢を叶えることを心から祈っています。

在校生の皆さん、皆さんの存在は私たちにとって大きな励みとなりました。これからも百折不撓の精神で、土岐紅陵高校をより良い学校にしていってください。

3年間、厳しくも温かく見守り続け、私たちに知的好奇心の扉を開けてくださった先生方のおかげで、学業だけでなく、人間としても真っ直ぐに大きく成長することができました。純粋な心で学び、日々努力を重ねた結果、今の私たちがあります。これから歩む道が美しいものであると信じ、克己心を胸に、明るい未来に向かって翔け出します。

最後に、本日の卒業式を挙行してくださったすべての方々に心より御礼申し上げます。今後の土岐紅陵高等学校の更なる発展と、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、答辞といたします。

令和7年3月1日
卒業生代表 緒方 愛莉

令和六年度部活動成績

【野球部】

第106回全国高校野球選手権岐阜大会

二回戦 本校 0-12 岐阜北 (5回コールド)

第59回岐阜県下選抜高校野球大会

一回戦 本校 7-1 本巣松陽 勝利

二回戦 本校 10-0 大垣南 (5回コールド)

【弓道部】

第72回岐阜県高等学校総合体育大会 個人戦

緒方 愛莉 県大会出場

五十嵐 星奈 県大会出場

第43回全国・全国高等学校弓道選抜大会

太田悠登 県大会出場

令和6年度岐阜県高等学校新人大会

太田悠登 県大会出場

【女子バレーボール部】

岐阜県高校総体バレーボール東濃地区予選

スコア 本校 0 対 2 中京

東濃地区秋季新人大会 5位

【男子バスケットボール部】

岐阜県高校総体バスケットボール競技東濃地区予選

スコア 本校 54 対 70 中京

岐阜県高等学校バスケットボールリーグ戦 5位

【卓球部】

東濃地区高等学校総合体育大会 卓球協議の部 男子団体

藤谷颯・牟田晴稀・林遼平・長田徠夢・古田浩人 3位

東濃地区学年別卓球選手権大会

2年女子の部 成瀬 葵 2位トーナメント 優勝

【吹奏楽部】

第57回岐阜県アンサンブルコンテスト東濃地区大会

管楽三重奏

宮川桃百花 山口紗和 河村 惺 金賞

第57回岐阜県アンサンブルコンテスト東濃地区大会

管打五重奏

嵯峨成記 高木一真 渥美勇哉 宮川陽奈 池庭万葉 銅賞

【ウエイトリフティング部】

第72回岐阜県高等学校総合体育大会 ウエイトリフティング競技

男子 81kg級 林 和育 2位

女子 59kg級 加藤 咲弥 3位

第71回東海高等学校総合体育大会 ウエイトリフティング競技

女子 59kg級 加藤 咲弥 3位

第3回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技大会 金沢大会

女子 59kg級 加藤 咲弥 出場

令和6年度東濃地区高校秋季大会 ウエイトリフティング競技

女子 59kg級 加藤 咲弥 優勝

令和6年度岐阜県高等学校新人大会 ウエイトリフティング競技

女子 59kg級 加藤 咲弥 2位

第30回東海高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会

女子 59kg級 加藤 咲弥 4位

【演劇部】

第72回岐阜県高等学校演劇大会東濃・飛騨地区大会

奨励賞

岐阜県高等学校総合文化祭 演劇部 東濃地区合同公演

奨励賞

【個人】

第72回岐阜県高等学校総合体育大会水泳競技大会

100m 平泳ぎ 三好 桜雅 5位

200m 平泳ぎ 三好 桜雅 5位

第58回岐阜県高等学校新人水泳競技大会

100m 平泳ぎ 三好 桜雅 3位

200m 平泳ぎ 三好 桜雅 2位

令和6年度東濃地区高等学校総合体育大会 水泳競技大会

50m 自由形 加藤 将 優勝

100m 自由形 加藤 将 優勝

50m バタフライ 加藤 柚菜 4位

100m バタフライ 加藤 柚菜 2位

50m 平泳ぎ 三好 桜雅 優勝

100m 平泳ぎ 三好 桜雅 優勝

男子総合 2位

茶道部

部長	奥田 咲莉	渡邊 ひなた
顧問	加藤 緑 安部 麻由美	続木 紀美子
講師	野々村 勉	
部員数	20名	

茶道部は、3年生10名、2年生4名、1年生6名の計20名で活動を行っている。

四季に合わせたお点前を学ぶとともに、季節の花についてもきちんと教えていただいた。

お点前は、一度できただけでは、忘れてしまうが、生徒が行うお点前の姿を見ながら、野々村先生は何度も丁寧に根気よく指導をしてくださっている。

今年度は1年生が6名の入部があった。入部した一年生は、帛紗の扱い方、茶筌の使い方など流れの一部分ずつを区切って練習を重ね、夏明けにはお点前ができるようになっていた。お点前の練習の指導は、基本先生が行うが、今年度の三年生は昨年度から、二年生、一年生の先生となって指導をすることも多く、この一年で三年生二人の成長はとても素晴らしいものであり、後輩の手本となる姿が多く見ることでできる活動時間であった。

このような先輩の姿を見ることで、二年生や一年生同士も教え合うようになり部員全体でお点前の技術を向上させることにつながっていった。今年度、昨年度まででは時間的にできなかったところまでお稽古を進めることができたのも、先輩の手本となる姿と一生懸命覚えようとする部員の意欲が高かった成果である。

最後、三年生を送る会では、先輩方の前でお点前を披露し、さらに三年生は高校最後のお点前を後輩の前で行った。

3月には多治見高校との合同お稽古が予定されている。他校との交流は今までのお稽古の成果を出せるいい機会となるので、次年度以降も継続したい。

礼儀や節度、助けあうことの大切さなど、部活動を通して得ることの多い一年であったとともに、来年度へつなげていけるよう進めていきたい。



吹奏楽部

部長	宮川 桃百花	副部長	山口 紗和
顧問	高橋 俊和	細井 祐花	
部員数	9名		

今年度部員は3年生2名、2年生4名、1年生3名と、昨年と比べて仲間が増えました。毎日の練習では互いに声を掛け合いながら、一人一人が真面目に取り組んできました。校外での活動の場も徐々に増え、仲間と演奏する楽しさや観客の方に聞いていただく喜びを感じる機会が多くなりました。

《今年度の主な活動》

- 5月25日 キャリアアップコンサート
(可児市文化創造センター)
- 7月5日 壮行会(本校)
- 7月13日 硬式野球部応援演奏
(夜明け前スタジアム)
- 7月23日&24日 ウェルカムコンサート(本校)
- 8月4日 ぎふ総文演奏(不二羽島文化センター)
- 10月14日 土岐市プラスの集い(土岐市文化プラザ)
- 10月31日&11月1日 紅陵祭 出演(本校)
- 12月7日 東濃地区連合音楽会
(瑞浪市文化センター)
- 1月11日 アンサンブルコンテスト地区大会
管楽3重奏 金賞/管打5重奏 銅賞
(映像審査)
- 1月22日 東濃特区别支援学校との共同学習
(東濃特別支援学校)
- 2月16日 土岐市消防音楽隊第8回定期演奏会
(土岐市妻木公民館)
- 2月28日 3年生を送る会(本校)
- 3月1日 本校卒業式にて式典演奏(本校)



部活動としての道筋が見えてきた1年でありましたが、来年度以降最大の課題は部員数の確保です。素敵な演奏ができるようになれば、吹奏楽部への憧れをもって入学してくれる生徒も増えると確信しています。そのためにも演奏技術の向上はもちろん、上質な人間関係の醸成などに取り組んでいきたいと考えています。

美術部

部長	南方 優季	副部長	佐藤 愛奈
顧問	井上裕美子	内山 久子	
部員数	17名		

美術部の活動は、週3日放課後が活動時間です。自分でテーマを決め、絵画・デザイン・立体など幅広い分野から興味のある分野の作品を制作しています。

本年度はいよいよ準備や練習を重ねていた、ぎふ総文2024の本番の年でした。全国からお迎えする約400名の参加者に向けて、岐阜の工芸を紹介しつつ、一緒に制作交流や鑑賞交流するおもてなしのプログラムを企画・運営しました。本校美術部の部員も交流部会や式典部会に部門要員として活躍しました。制作交流のモチーフとなったのは、「美濃焼モザイクタイルペントレー」です。地元のタイル会社である「立風製陶株式会社」様より、本大会のための協賛として素敵な美濃焼モザイクタイルをご提供いただきました。下はそのタイルを用いた、ペントレーの試作品です。



美濃焼モザイクタイルの味わい深い風合いについて、その製造についても知るべく、工場見学に伺いました。



感想：焼成する過程で「窯変」と呼ばれる窯も中で釉薬が変化する色合いが美しかったです。全長108mの日本一の規模を誇る、トンネル窯と釉薬を多層にかけることのできる施釉ボックスを備えた製造ラインが興味深かったです。



漫画研究部

部長	山本 夢七
顧問	鈴木 茂博、稲垣 あけみ
講師	肥田 有香
部員数	14名

私たち漫画研究部、通称「漫研」は毎週月・水曜日の放課後に、マンガ実習室で活動しています。主な活動は、毎月の小冊子「BELLE FLOWER」の発行と文化祭で発表するオリジナル冊子の発行です。

小冊子は毎月テーマを決めて、そのテーマに沿った漫画や白黒イラストを描いています。各部員の作品を、自分たちで毎回印刷・製本して冊子を作り上げます。小冊子は図書館にも置いていただき、全校生徒の皆さんにも観ていただくようにしています。オリジナル冊子のほうは、ストーリー漫画を掲載しており、イラストだけではわからない各部員の個性が光ります。

普段の活動は各自がイラストや漫画を描いて、お互いにアドバイスなどを出し合いながら画力の向上を目指しています。漫画が好きな人は勿論、絵を描くことが好きな個性ある人達に囲まれ、日々楽しく充実した時間を過ごしています。

夏休みには紅陵高校でしか体験できない「マンガ講座」が開講され私たちも協力しています。

漫画家である肥田先生のご指導の下、イラストのアドバイスの他、好きなアニメなどを話題にして一緒に盛り上がっています。漫画が好きな人、絵を描くことが好きな人に囲まれて、日々楽しく充実した時間を過ごしています。

また、土岐市からイラストや漫画の依頼があると積極的に参加することもあります。生徒全員が大変意欲的に部活動に取り組んでいて、各自の漫画作成の技術の向上を目指しています。



演劇部

部 長	前期 城塚 咲穂 後期 松原 隆裕
顧 問	佐藤 純子 大宮 学
部員数	4名

私たち演劇部は、演じることや演劇に携わる仕事(演出、音響、照明、小・大道具製作、脚本など)に興味のある人が集まり、現在・男子3名女子1名で活動しています。基本の活動日は月・火・木・金曜日です。主に LL 教室や体育館のステージで発声・滑舌練習、ランニング、演技練習などを行っています。

夏には「岐阜県高等学校演劇大会中東濃飛騨地区大会」、秋には「岐阜県高等学校総合文化祭」に出場します。夏の大会では東濃地区から上位2校に県大会への出場権が与えられるので、特に練習に熱が入ります。

夏の大会では『海に願いを』(創作)を上演しました。本校の2年生部員が台本を書き、3年生が1・2年生を支える形で何とか、皆で劇を作り上げました。昨年に上演した、『月と浮たり寄り添い』の続編にあたるもので、同じ世界観を作り上げようと協力できました。皆で色々なことを話し合い、上級生と下級生の絆を育むことができたと思います。

秋の大会では、『夜明けと流星』(創作)を演じることになりました。この作品では、2年生の部長を支えて、1年生が主に活躍をした劇でした。直前に風邪をひいて部員が休むなど、アクシデントが多発しましたが、何とか無事に公演を終えることができました。

結果は奨励賞に終わりましたが、意欲ある1年生と協力して、実りある舞台になったと思います。今年度は一度辞めた部員が戻ってきたり、男子が多くなるなど多彩な部員が多く入りました。しかし、まだ人数は少なく心配は尽きません。部員勧誘をはじめ、今後も楽しく活動していけるよう努力したいと思います。



e-sport 同好会

部長	レイエス リアン (前期・後期)
顧問	薄田 直樹 田内 香織
部員数	12名

私たち e-sport 同好会は、1年生4人、2年生8人の計12人で活動しています。

活動は平日の火曜日と金曜日の17:00~18:00の1時間で、各自の自宅でオンラインを中心に活動をしています。オンラインで行う時には、discordというゲーマーがよく利用しているソフトウェアを使用しています。discordでは、画像の共有、ファイルのアップロード、チャットでの会話や音声通話、ビデオ通話も可能で様々なコミュニケーションを行っています。また、16:00~17:00の1時間で、学校のゼミナール室や視聴覚室の大画面を使用して、活動することもあります。集合して行う場合には、部員が実際に所有しているゲーム機やゲームソフトを持参して、部活動に参加している生徒が、交互に入れ替わってゲームテクニックの向上を図っています。特に、2年生の生徒が1年生の生徒を優しく指導する場面がみられ、和気あいあいとした活動となっています。

本年度は、昨年度のように公式の大会へ団体として参加することはありませんでしたが、日々、個人として実力を磨く年となりました。来年度は、機会があれば、団体として公式戦に参加をし、地区ブロック大会を勝ち抜き、全国大会へ出場できるような実力をつけることができればと考えています。岐阜県内でも全国大会に出場し、上位入賞をしている学校もありますので、そのような学校を目標にして、少しでも追い付き、追い越せるような実力をつけることができればと思っています。

来年度は、e-sport 同好会が発足して3年目となり、ようやく3学年そろって活動ができるようになりますので、なお一層活発に活動して、飛躍できる年となるように活動していきたいと考えています。

卓球部

部長	林 遼平[前・後期とも]
顧問	加藤 健二、安藤 みゆき
部員数	11名[令和6年5月1日現在] 3年男子2人、女子2人 2年男子5人、女子1人 1年男子1人、女子0人

今年度は「可能な限り試合に出よう」という方針で、初心者の方の1年生も夏休みの大会から出場してきた。今年度出場大会とその結果は、下記のとおりである。

また、1月からの冬の時期には大会が少なく、地道な練習を繰り返すことで、各自が課題とするところを克服して、来年度初めに実施されるI.H.地区予選に臨みたい。

- ・I.H.卓球競技 個人の部 東濃地区予選[5/5(日)]
シングルス 男子6名 女子2名 参加。
内 男子2名 女子1名 2回戦進出。
2回戦に出場した女子1名(山花夢)は、県予選再選考会[5/11(土)]で 6位(惜しくも県予選出場権を獲得できず)
女子ダブルス 1組(山花夢・成瀬)参加。県予選に進出。
- ・県総体 兼 I.H.卓球競技 個人の部 県予選[5/25(土)]
女子ダブルス(山花夢・成瀬) 1回戦敗退。
- ・東濃総体 卓球競技の部[団体戦][7/13(土)]
男子予選リーグ 1位通過。1位トーナメントで 3位。
- ・岐阜県高校生新人卓球大会 個人の部[8/8(木)]
シングルス 男子4名 女子1名 参加。
男子1名(藤谷)予選リーグ突破。決勝トーナメント2回戦進出。
- ・ニッタク杯第43回東濃卓球選手権大会(シングルス)[8/12(月)]
男子4名 女子2名 参加。内4名が2回戦進出
- ・ニッタク杯第43回東濃卓球選手権大会(ダブルス)[9/23(月)]
女子1組(山花夢・成瀬) 参加。2回戦敗退。
- ・全日本卓球選手権大会ジュニアの部東濃地区予選[9/16(月)]

男子4名 女子1名 参加。

女子1名(成瀬)予選リーグ突破。決勝トーナメント1回戦敗退。

- ・全日本卓球選手権大会ジュニアの部県予選[10/14(月)]
女子シングルス1名(成瀬)参加。2回戦敗退。

- ・岐阜県高等学校卓球新人大会 東濃地区大会[10/26(土)]

男子団体 予選リーグ 3位。3位リーグ 1勝2敗。

- ・岐阜県高等学校卓球新人大会 学校対抗の部[11/9(土)]

男子団体 2回戦進出。

- ・東濃地区学年別卓球選手権大会[11/30(土)]

1年男子シングルス1名(古淵)参加

予選リーグ 4位。4位トーナメント2回戦敗退。

2年男子シングルス3名参加

藤谷 予選リーグ 1位。1位トーナメント1回戦敗退。

林平 予選リーグ 3位。3位トーナメント2回戦進出。

山花夢 予選リーグ 3位。3位トーナメント1回戦敗退。

2年女子シングルス1名(成瀬)参加

予選リーグ 2位。2位トーナメント優勝。

- ・卓球技術講習会・交流試合[2/9(日)]

男子2名 女子1名 参加。

- ・中津川オープン卓球大会[2/22(土)]

2年女子シングルス1名(成瀬)参加

- ・加藤澄男杯全国オープン卓球選手権大会[3/9(日)]

2年女子シングルス1名(成瀬)参加

男子バスケットボール部

前期部長	櫻田 有成（３年生）
後期部長	田中 琉斗（２年生）
顧問	福井 恵一、坂野 未来
部員数	１３名

今年度の男子バスケットボール部は、３年生５名、２年生４名、１年生４名の合計１３名が所属し、主に平日は月、火、木、金曜日、休日は土曜日に活動した。

４月	県総体地区予選	54-70（中京）
７月	地区総体	65-90（恵那）
	リーグ戦	63-69（加茂）
		31-97（岐阜農林 B）
		52-110（多治見北）
		83-51（岐阜聖徳）
		44-59（関有知）
１０月	選手権大会	26-88（岐阜総合）
１月	新人戦 １回戦	41-74（多治見西）

「応援されるチーム」を目指し、１年間活動してきた。日々の学校生活から気を配り、コート内では全力で取り組むよう心掛けた。その成果もあり、リーグ戦では県大会での１勝を達成することができた。

人数が少なくなっても、ひたむきに練習に取り組むことができている。さらなるチーム力と個人技能の向上に努めていきたい。

弓道部

前期部長	小野 治真
後期部長	五十嵐 星奈
顧問	野々村 健 石崎 吉一
講師	虎澤 敏彦
部員数	１０名

弓道部は、男子６名・女子４名（令和７年２月現在）計１０名（３年生を含む）で活動しています。基本的な活動時間は平日の放課後および、土曜日の午前中を中心に行っています。また、大会や弓道審査前には外部の道場を借りて、緊張感溢れる雰囲気を経験しつつ、「弓」の技術鍛錬に励んでいます。

令和６年５月１１日（土）の第７０回岐阜県高等学校総合体育大会東濃地区予選大会では、３年生の緒方愛莉さんと２年生の五十嵐星奈さんが好成績を収め、県大会出場を果たしました。５月１８日（土）に長良川弓道場で行われた県大会には、部員全員で応援に行きました。また、令和６年１０月２０日（日）の第４３回全国弓道選抜大会東濃地区予選大会では、２年生の太田悠登君が好成績を収め、県大会出場を果たしました。さらに、令和７年２月１日（土）の令和６年度岐阜県高等学校新人大会東濃地区予選大会でも２年生の太田悠登君が好成績を収め、県大会に出場しました。県大会は降雪による気象警報が発令されたため、残念ながら中止となってしまいました。

弓道審査においては、３年生の緒方愛莉さんが弐段、２年生の山田羽菜さんが初段、１年生の志津大雅君が１級を取得しました。緒方さんは２月の審査において参段取得に挑戦してくれました。



女子バレーボール部

部 長 藤田 さくら 伊藤 ちさき
顧 問 田嶋 大樹 白川 功貴

部員数 1年：5名
2年：7名（マネージャー3名）
3年：7名（マネージャー1名）

この1年間の公式戦の結果は以下の通りです。

<第17回 スプリングチャレンジカップ>

1回戦 対 大垣東 0対2 負け

<岐阜県高校総体バレーボール東濃地区予選>

1回戦 対 中京 0対2 負け

<東濃地区総合体育大会バレーボール競技>

1回戦 対 中京 0対2 負け

<東濃地区秋季新人大会>

リーグ戦 1勝6敗 （6チーム中5位）

<岐阜県選手権大会>

1回戦 対 池田 0対2 負け

今年度の活動において、私たちのチームは「一勝」を目標に掲げ、日々練習に励んできました。経験者が少ないという困難な状況の中、部員たちは前向きな姿勢を持ち、毎日の練習に取り組みました。

3年生の引退を機に、経験者が一人になり、新チームの編成に際しては不安な気持ちが募りました。しかし、年度途中で新たに仲間を迎えることで、不安もなくなり、チームはより一層活気に溢れるようになりました。これにより、部員同士が切磋琢磨しながら、より高度な練習に取り組むことができました。

そして、東濃地区秋季新人大会において、ついに今年度の目標である「一勝」を挙げることができました。

この経験を糧に、来年度は県大会での「一勝」を目指して、更なる努力を続けていきます。これからもチーム一丸となって、目標に向かって邁進していく所存です。

皆様のご支援とご声援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

硬式野球部

部 長 池田 斗偉 土本 賢志
顧 問 荻曾 翔 小田中 悠真
金子 浩隆 貝川 和生
伊藤 翔真

部員数 16名



この1年間の公式戦の結果は以下の通りです。

<令和6年度春季東濃地区高等学校野球大会>

一回戦 対中津川工 1対3 負け

敗者復活一回戦

対中津商 3対6 負け

<春季土岐市長杯争奪戦>

対土岐商業 1対1 負け

<第106回全国高等学校野球選手権岐阜大会>

二回戦 対 岐阜北 0対1 2 負け

<令和6年度秋季東濃地区高等学校野球大会>

一回戦 対 土岐商業 0対1 0 負け

<令和6年度秋季岐阜県高等学校野球大会>

一回戦 対 岐阜聖徳学園 1対10 負け

<県下選抜高等学校野球大会>

一回戦 対本巣松陽 7対1 勝ち

二回戦 対大垣南 10対0 負け

硬式野球部は1年生8名、2年生5名、3年生2名、マネージャー1名の合計16名が所属しており、「下剋上～紅陵旋風を巻き起こせ～」というテーマを掲げ、日々練習に取り組んでいます。

今年度はメンタルトレーナーの有永克己氏を招き、自分自身の「可能性」について講演していただきました。講演を受け、選手1人1人の可能性やチーム全体の可能性を改めて認識することができました。自分たちの可能性を信じることで、練習の質も上がり、結果も上向きになってきています。まだまだ、力不足な点が多々ありますが、努力を重ね、一つ一つ課題をクリアし、成長していくことは土岐紅陵高校野球部の目的である「野球を通じた人格形成」につながると考えております。

日々支えてもらっている方々に成長した姿を見せることができるよう、一生懸命に取り組んでおりますので、今後も応援のほどよろしくお願いいたします。

<その他の活動>

・MSリーダーズとして挨拶運動

サッカー部

前期部長	都築 暖人
後期部長	中村 大和
顧問	坂崎 陽祐 水野 健靖 濱田 真成 高田 実香
部員数	16名(内:マネージャー2名)

今年度は、1年生8名、2年生5(マネ2)名、3年生3名の合計16名で活動しております。他校に比べ、人数は少ないですが、サッカーが好きな気持ち、成長しようとする気持ち、一生懸命頑張ろうとする姿勢は、負けません。「自分を磨き続け、社会で活躍できる生徒を育てる」という理念のもと活動しております。活動目標は、全国高校サッカー選手権大会岐阜県予選で勝利することです。チーム全員で一つの勝利を目指す過程で、生徒は様々なことを学ぶことができると考えております。グラウンドでは、サッカーの技術向上のみでなく、一生懸命がむしゃらに頑張ること。日常生活では、挨拶や礼儀、時間管理、整理整頓清掃など、人として成長していくための土台作りを大切にしています。応援して下さいの方々への感謝の気持ちを忘れることなく、これからも更なる成長を目指して活動していきたいと思います。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。



ウエイトリフティング部

前期部長	林 和育
後期部長	林 和育
顧問	伊藤翔真 細川万穂 続木紀美子
部員数	2名

ウエイトリフティング部は「愛される部活動になる」という目標を掲げて2年生2名で日々活動をしています。成績といたしましては、東海大会に1名出場、加藤咲弥さんが3位の成績を収めました。全国高校女子大会に出場しました。1月の東海選抜大会では1年加藤咲弥が4位になりましたが、全国との壁は高く選手、監督含め悔しい思いをしました。戦うべき相手は全国のライバル達であると再認識しそのライバルたちの背中を追いかけてまた追い越そうと意識を高く日々の活動に取り組んでおりますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

